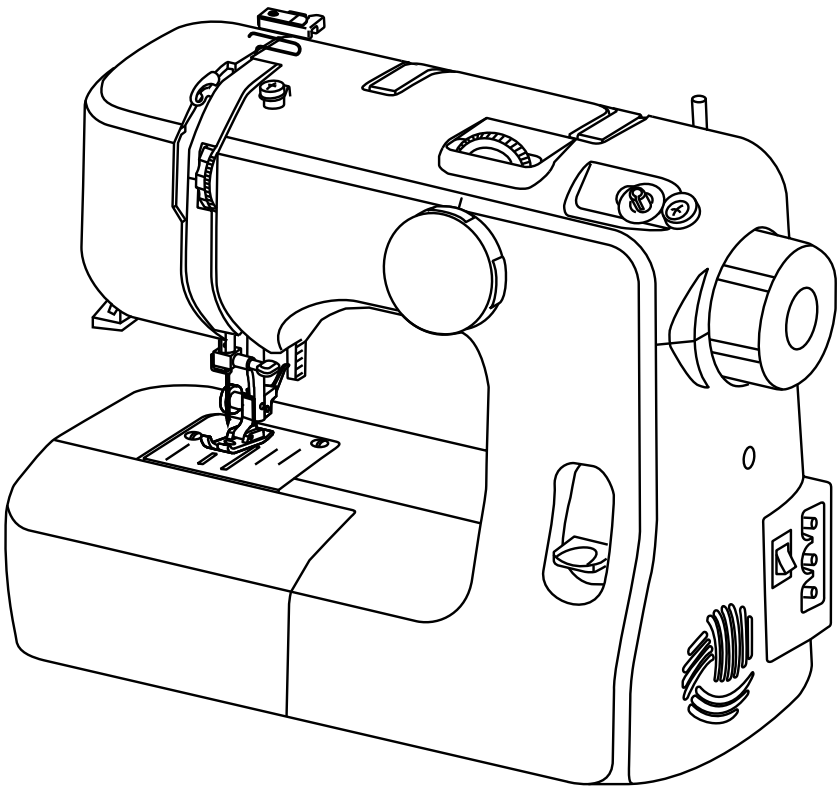
取扱説明書

モデル：MF-30 シリーズ

Sewing Machine



お買い上げいただきありがとうございます。

SINGER®

⚠ 警告

電気製品は安全のための注意事項を守らなければ、火災や人身事故になる場合がございます。
この「取扱説明書」には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いを示しています。
この「取扱説明書」をよくお読みのうえ、この製品を安全にご使用ください。

また、お読みになった後はいつでも見ることができるように、必ず保管してください。

もくじ

お使いになる前にお読みください

安全にご使用いただくために ー ー ー ー ー ー 2 ～ 3
取り扱いのお願い ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー 3
補助テーブル ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー 4
付属品 ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー 4
各部の名まえ ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー 5

操作の仕かた

模様選択ダイヤル ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー 6
手持ちハンドル ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー 6
押え上げレバー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー 7
押えの取り外しかた・取り付けかた ー ー ー ー 7
押えホルダーの取り外しかた・取り付けかた 8
電源を入れる前に ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー 8
電源を入れる ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー 9

縫う前の準備

ボビンの取り出しかた ー ー ー ー ー ー ー ー ー 10
下糸の巻きかた ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー 11 ～ 12
下糸のセット ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー 13
上糸のかけかた ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー 14 ～ 15
下糸の引き上げかた ー ー ー ー ー ー ー ー ー 16

縫ってみる ＜基本編＞

直線縫い ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー 17
返し縫い ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー 18
縫い方向を変える ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー 18
厚地や段差を縫う ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー 18
縫い目長さ調節ダイヤル ー ー ー ー ー ー ー ー 19
針、糸、生地の関係 ー ー ー ー ー ー ー ー ー 19
糸調子の合わせかた ー ー ー ー ー ー ー ー ー 20

縫ってみる ＜応用編＞

ジグザグ縫い／縁かがり縫い ー ー ー ー ー ー 21
アップリケ ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー 21
パッチワーク（つき合わせ） ー ー ー ー ー ー 22
ゴムテープ付け ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー 22
スカラップ ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー 23
ボタンホール縫い ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー 24 ～ 25

お手入れ

針の取り替えかた ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー 26
正しい針の選びかた ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー 26
かまの掃除 ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー 27 ～ 28
送り歯の掃除 ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー 28

その他

困ったときは ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー 30 ～ 31
仕様 ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー 31
修理サービス要領 ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー 32
サービス工場のご案内 ー ー ー ー ー ー ー ー ー 32
MEMO ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー 33 ～ 34
保証書 ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー 終

安全にご使用いただくために

ご使用の前に「 取扱説明書 」を必ず読み、正しく安全にご使用ください。

この取扱説明書および商品には、安全にお使いいただくためにいろいろな表示をしています。以下の表示を無視して誤った取り扱いをすることにより生じる内容を、次のように区分しています。

以下の内容をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

- このミシンは日本国内向け家庭用です。 For use in JAPAN only. 国外での使用および職業用としてご使用になった場合の保証はできません。
- 仕様および外観は品質改善のため、予告なく変更することがあることをご了承ください。
- 取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 取扱説明書の内容を許可なく無断で複製をすることは禁じられておりますのでご了承ください。

警告	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う恐れがある内容を示しています。	**注意**	この表示を無視して誤った使い方をすると、人がケガをしたり財産に損害が生じる恐れがある内容を示しています。

この説明書で使用している絵文字の意味は次の通りです。

危険性を促す記号			行為を「 禁止 」する記号		行為を「 指示 」する記号	
						
火災の原因になります	感電の危険性があります	ケガの危険性があります	禁止	分解禁止	必ずすること	電源プラグを抜く

注意　ケガや財産に損害が生じる恐れがあります。




・ミシンを不安定な場所に置かないでください。

・動作中に、はずみ車・針・天びんに手を触れないでください。
　手や指が挟まる、針が刺さるなどケガの原因になります。

・曲がった針は使わないでください。
　針が折れ、ケガの原因になります。

・かまカバーを開けたままミシンを操作しないでください。

・縫製中、生地を無理に引っぱったり、押したりしないでください。
　手や指が挟まる、針が刺さるなどケガの原因になります。




・火の気のあるもののそばでは使用しないでください。
（ 火の消えていないタバコ、ロウソクなど ）
　火災の原因になります。

・ミシン本体の換気口をふさがないでください。

・換気口は、必ず壁から 30cm 以上離してご使用ください。
また、換気口に糸くずやホコリが溜まらないようにしてください。
　火災の原因になります。

・スプレー製品などをご使用の部屋では、使用しないでください。
　スプレーへの引火によるヤケド・火災の原因になります。




・ミシンを使用しないときやミシンから離れたり、使用を中断するときはコンセントから電源コードプラグを抜いてください。
　絶縁劣化、漏電などによる火災の原因になります。



・電源コードはミシン本体やフットコントローラーに巻き付けないでください。
　コードの断線や接触不良による感電の原因になります。

・濡れた手で電源コードプラグを抜き差ししないでください。
　感電の原因になります。




・幼児の手が届かない場所に保管してください。
　針や押えなどの突起でケガの原因になります。

・糸をセットするときやミシンの手入れを行うときは電源スイッチを『 OFF 』にしてください。
　作業途中にミシンが動く恐れがありケガの原因になります。



・ミシンの操作中はミシンから目を離さないでください。

・交換した針を放置しないでください。

・お子様が使用するときや、お子様の近くで使用するときは特に安全に注意し、お子様から目を離さないでください。

・針、押え、アタッチメントを交換するときは、電源コードプラグをコンセントから抜いてください。
　作業途中にミシンが動く恐れがありケガの原因になります。

・屋外や直射日光のあたる場所、高温多湿な環境、寒い場所での使用は避けてください。
　部品の劣化や変形、正常に作動しないことがあります。

・ミシン本体は必ず手持ちハンドルを持って、持ち運びをしてください。
　手持ちハンドル以外の部分を持つと破損したり、滑って落とし、ケガの原因になります。

・ミシン本体を持ち運びするときは、急激・不用意な動作をしないでください。
　ケガの原因になります。

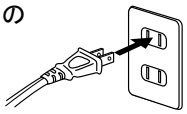
・電源コードを引き抜くときは電源コードプラグを持って抜き差ししてください。
　コードの断線や接触不良による感電の原因になります。

警告

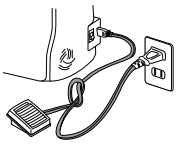
死亡、火災、感電の恐れがあります。

火災・感電の原因になります。

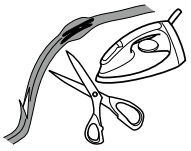
- 一般家庭用電源 AC100V の電源以外では絶対に使用しないでください。
  AC100V 50/60Hz



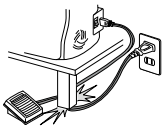
- 電源コードを傷つけたり、折り曲げ、結び、ねじれ、加工はしないでください。



- 傷付いたり、溶けて線がむき出しになったコードを使わないでください。
  ＊コードが傷付いた場合は販売店・サービスセンターにて純正部品をお買い求めください。



- 電源コードに机や椅子の脚など、重いものを載せないでください。

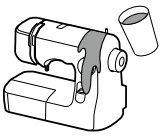


- 延長コードや分岐コンセントを使用したタコ足配線はしないでください。



火災・感電の原因となります。販売店・サービスセンターにご連絡ください。

- ミシンの中に水や異物が入ったときは、電源スイッチを『 OFF 』にし、電源コードプラグをコンセントから抜いてください。



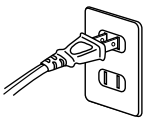
- 発煙や異臭、異音などの異常が発生したら電源スイッチを『 OFF 』にし、電源コードプラグをコンセントから抜いてください。



- 落としたり正常に作動しないときは電源コードプラグをコンセントから抜いてください。



- 電源コードプラグをコンセントにしっかり差し込んでください。



- ミシン本体の換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。

取り扱いのお願い

永くご使用いただくため、次のことを守ってください。

縫製以外や業務用、職業用の目的には、ご使用にならないでください。極度の部品摩耗や破損につながります。

注意

ケガやミシンの故障が発生する恐れがあります。

■ 曲がった針を使わない

曲がった針を使うと、次のようなケガや部品の損傷につながります。

・針穴に刺さらず、折れた針が飛び、ケガの原因になります。　・押えや針板、ボビンケースに傷を付け、糸調子が合わなくなります。

■ このミシンで縫えないもの

次のものはこのミシンでは縫えません。針やモーターなどに過度の負担をかけ、故障の原因になるだけでなく、針折れなどの原因にもなります。

・木、プラスチック、金属などの板・ぬれた生地、粗い網（漁網など）・はずみ車を手で回しても針が刺さりにくい生地、厚過ぎる生地。

■ 保管時の結露（つゆつき）について

寒いところから、暖かい室内に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋では、本体の表面や内部に結露（つゆつき）が起こることがあります。結露がなくなるまで、電源コードプラグをコンセント（家庭用電源）に接続しないでください。そのままお使いになると感電や誤動作・故障の原因になります。

■ 直射日光・熱気をさける

直射日光が当たる場所や熱器具の近くには置かないでください。プラスチックのカバー部分や内部部品に変色・変形や部品劣化などの悪い影響を与えますのでご注意ください。

■ 糸絡みのとき、糸・生地を引っぱらない

針や部品を破損します。

■ ミシン表面のお手入れ

プラスチック部分の汚れがひどいときは、中性洗剤をぬるま湯に薄め、布に浸してかたく絞り、乾いた布で仕上げてください。

・ベンジン・シンナー・ワックスなどで拭かないでください。

■ 説明書で指定された以外の分解・改造はしない

ネジ類の締め忘れやゆるみにより、針折れや部品の破損の原因になります。

■ 長期間ご使用にならないとき

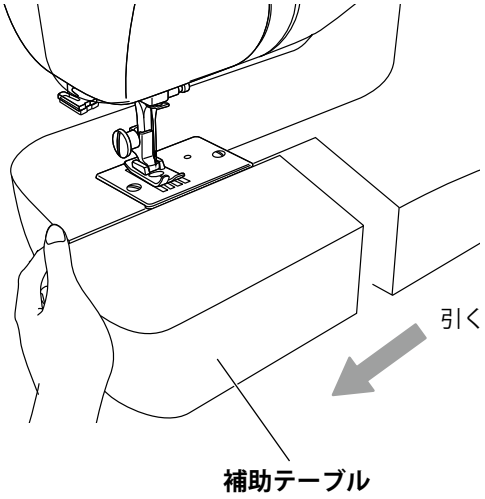
長期間ご使用にならないと、油の乾燥・固着などで機能に支障をきたす場合があります。
時々、ミシンを動かしてください。油の固着を防ぐことができます。

■ ミシンの上に物を載せない / ミシンの上に乗らない

ミシンに負担がかかり故障の原因になるだけでなく、ミシンが倒れたりしてケガの原因になります。

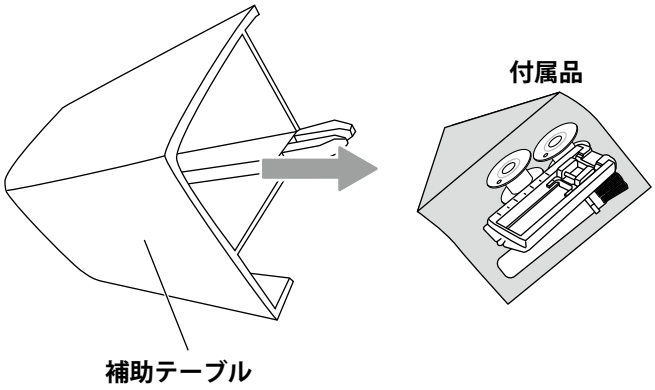
補助テーブル

●補助テーブルの外しかた



『補助テーブル』を持って左に引き抜きます。

●付属品の出し入れ



『補助テーブル』の内部に『付属品』が収納されています。

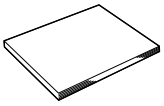
付属品

＊必ず専用の付属品をご使用ください。

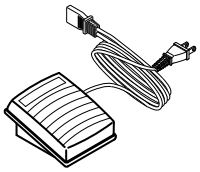
注意

付属品でお子様がケガをする恐れがあります。
保管には充分ご注意ください。

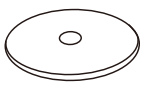
●ミシンと同梱されている付属品


取扱説明書（本書）

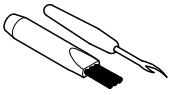

ミシンカバー

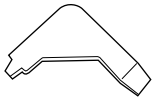

フットコントローラー
（電源コード一体型）

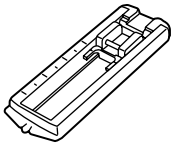
●補助テーブル内の付属品

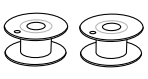

フェルト


家庭用ミシン針
14 番：3 本


リッパー
（ブラシキャップ付）

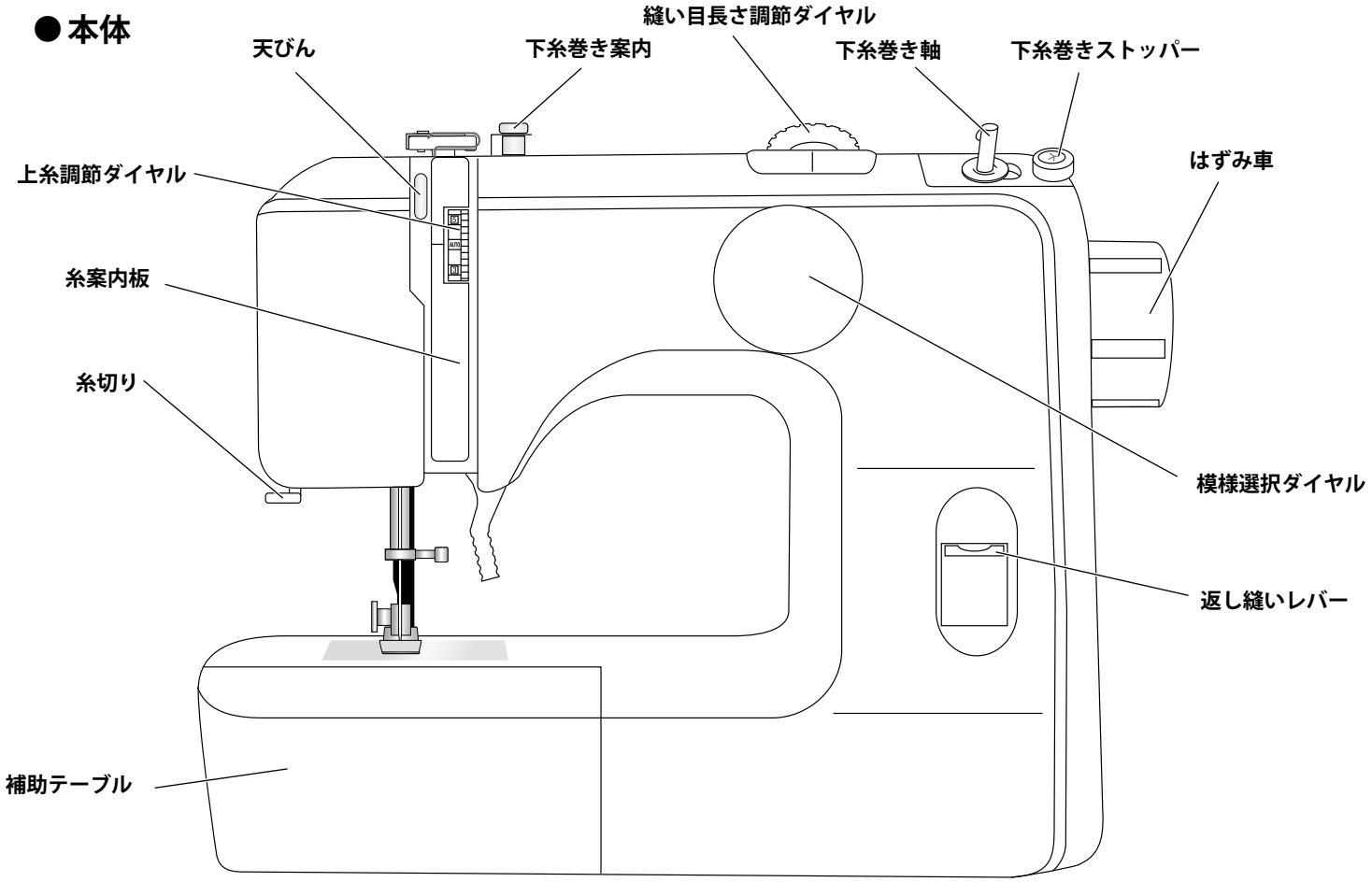

針板ドライバー


ボタンホール押え

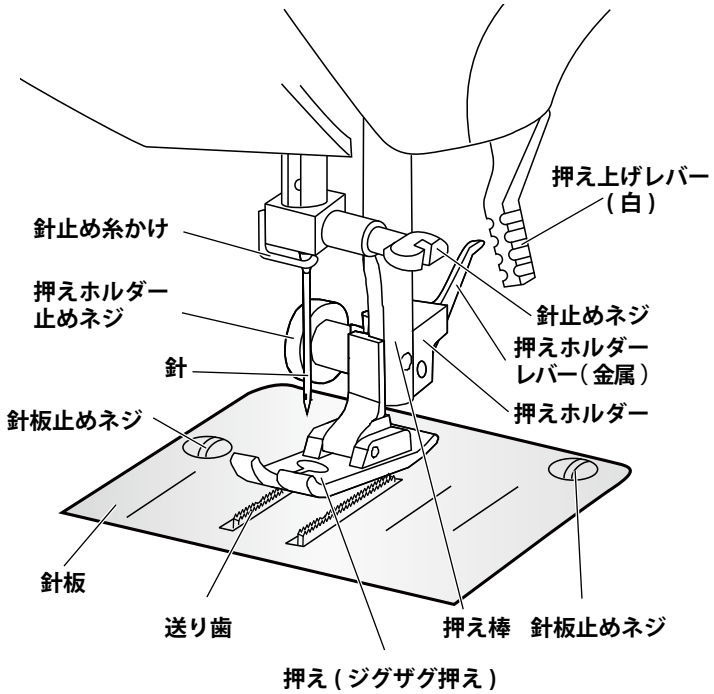

家庭用プラスチックボビン
（高さ 11.5mm ×直径 20.5mm）
ボビン　2 個

各部の名まえ

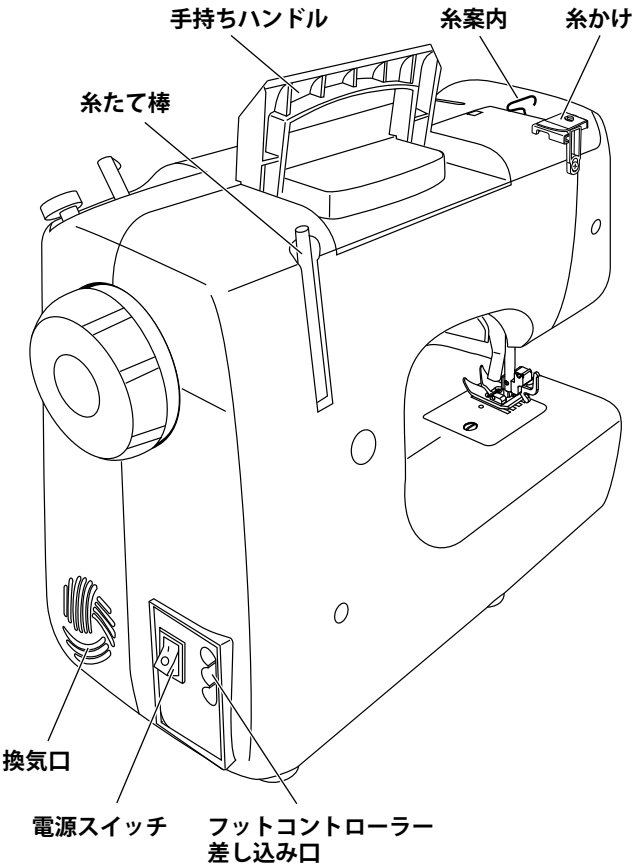
●本体



●針周辺



●右側背面

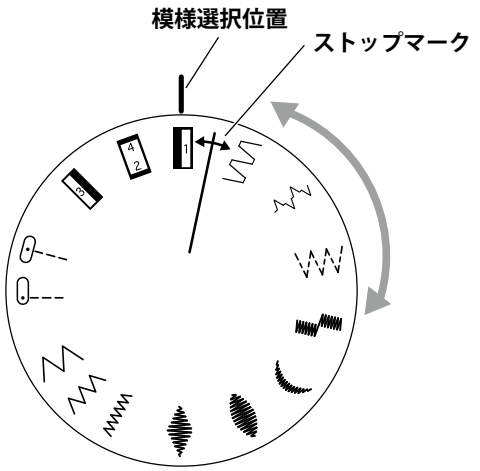


模様選択ダイヤル

注意

・はずみ車を手前に回し、針を上げる。
針が生地に刺さった状態で、模様選択ダイヤルを回すと、針が折れ、ケガをする恐れがあります。

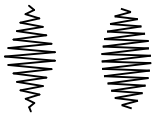
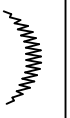
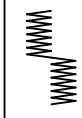
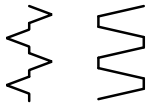
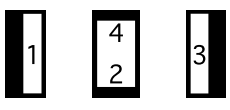
・模様選択ダイヤルのストップマークより回さない。
ストップマークより回してしまうと、ミシンが破損する恐れがあります。



『 模様選択ダイヤル 』を回して、縫いたい模様を『 模様選択位置 』に合わせます。

＊『 模様選択ダイヤル 』の『 ストップマーク 』を超えて回りません。

●縫い模様一覧

								
直線縫い（中基線）	直線縫い（左基線）	大 中 小 ジグザグ縫い	飾り縫い	スカラップ縫い	飾り縫い	点線ジグザグ縫い	飾り縫い	ボタンホール縫い

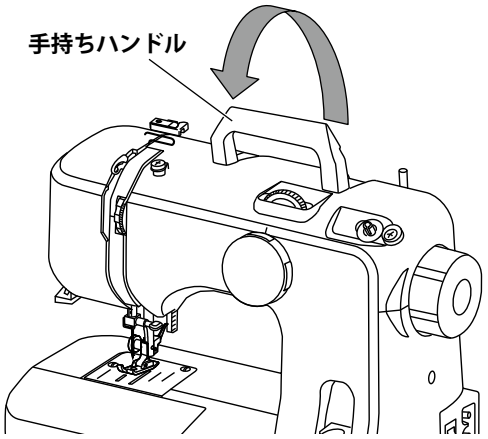
手持ちハンドル

注意

・ミシン本体は必ず手持ちハンドルを持って、持ち運びをしてください。
手持ちハンドル以外の部分を持つと破損したり、滑って落とし、ケガをする恐れがあります。

・ミシン本体を持ち運びするときは、急激・不用意な動作をしないでください。
ケガをする恐れがあります。

＜ミシン正面図＞



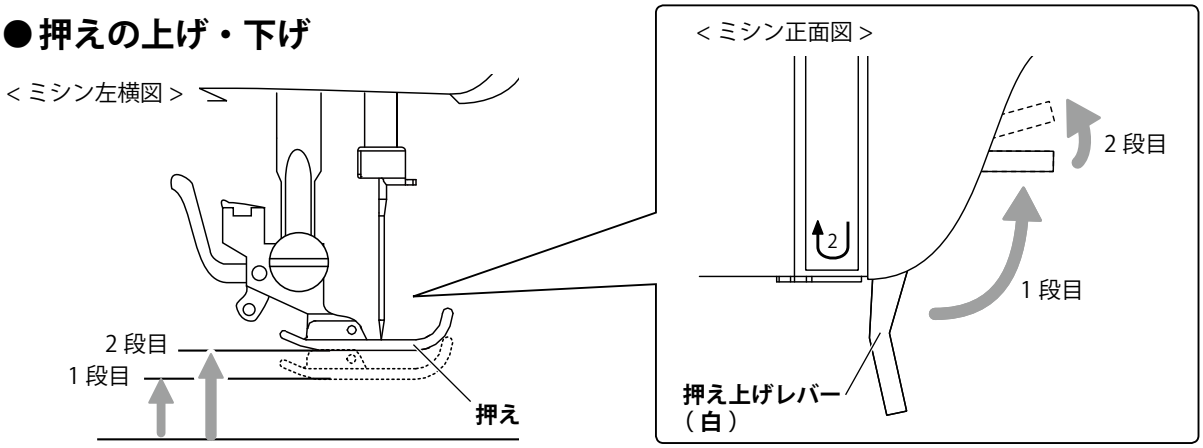
ミシンを移動させるときは、『 手持ちハンドル 』に手を入れて、ミシン本体を移動させます。

押え上げレバー

注意

・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

●押えの上げ・下げ



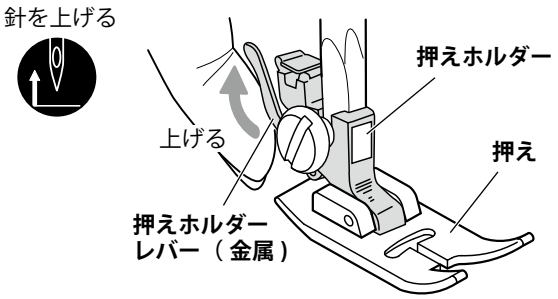
『 押え上げレバー（白）』を上げると、『 押え 』が上がります。
更に『 押え上げレバー（白）』を上げると、『 押え 』がもう一段上がる2段階式になっています。
＊2 段目では、『 押え 』の高さは固定できません。
＊生地の厚みは 1 段目の高さを超えないようにしてください。

押えの取り外しかた・取り付けかた

注意

・電源スイッチを『 OFF 』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。

・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

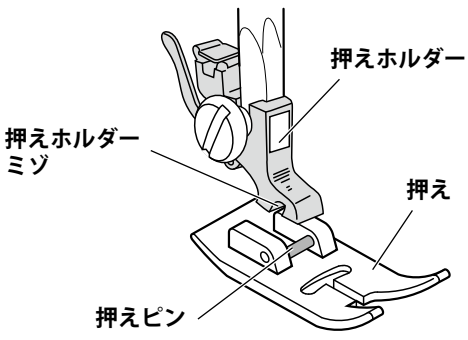


●押えの外しかた

【1】『 はずみ車 』を手前に回し、針を上げます。

【2】『 押え上げレバー（白）』を上げます。

【3】『 押えホルダーレバー（金属）』を上げると、『 押え 』が外れます。



●押えの取り付けかた

【1】『 針 』と『 押え上げレバー（白）』を上げます。

【2】『 押えピン 』を『 押えホルダーミゾ 』の真下に置きます。

【3】『 押え上げレバー（白）』をゆっくり下げ、『 押えピン 』と、『 押えホルダーミゾ 』を合わせます。

＊押えがセットされると『 カチッ 』と音がします。
＊音がしない場合や押えがすぐに外れるときはもう一度『 押えピン 』と『 押えホルダーミゾ 』を合わせ直してください。

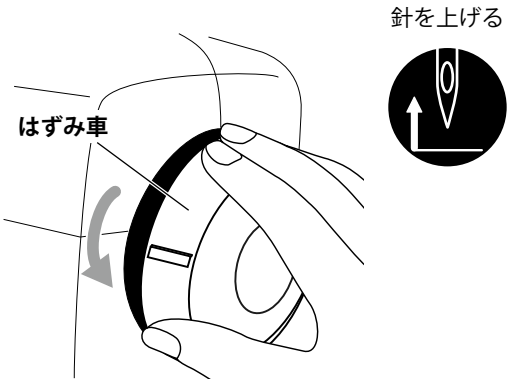
押えホルダーの取り外しかた・取り付けかた

注意

・電源スイッチを『 OFF 』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。

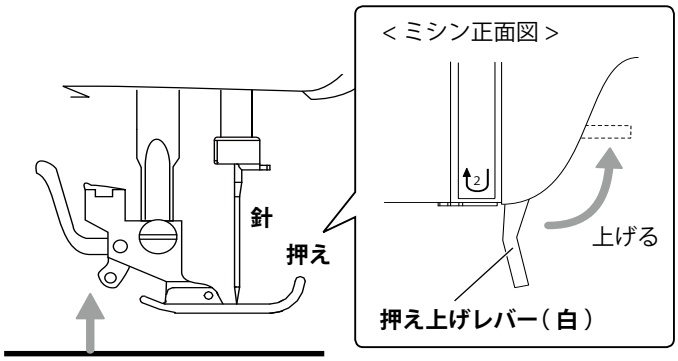
・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

＜ミシン右横図＞

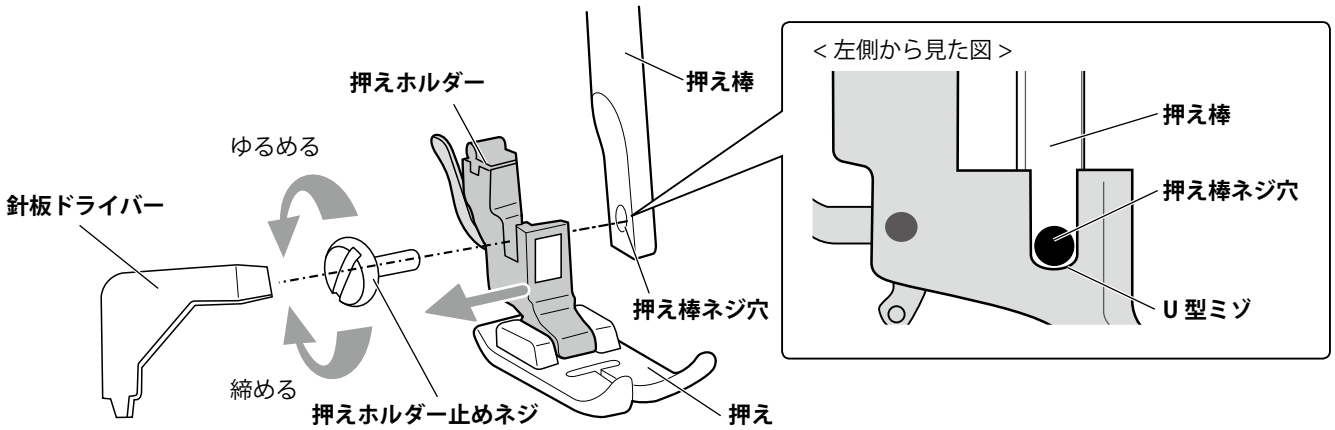


【1】『はずみ車』を手前に回して、『針』を一番上にします。

＜ミシン正面図＞



【2】『押え上げレバー（白）』で『押え』を上げます。



【3】 外す　:『押えホルダー止めネジ』を『針板ドライバー』でゆるめ、『押えホルダー』を外します。
付ける:『押えホルダーのU型ミゾ』と『押え棒ネジ穴』の位置を合わせ、『押えホルダー止めネジ』を『針板ドライバー』で強く締めます。

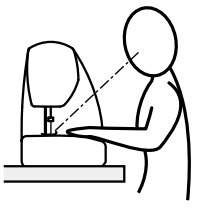
電源を入れる前に

縫い損じを防ぐため、次のことを実施してください。

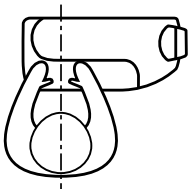
注意

・安定した場所に設置する。・作業スペースを十分に確保する。
・周囲に物を置かない。
はずみ車や針など動く部分が露出しています。ケガをする恐れがあります。

●ミシンをより快適に使うために



針先が無理なく見える位置にミシンを設置してください。



針の中心と身体の中心が一致するようにミシンを設置してください。

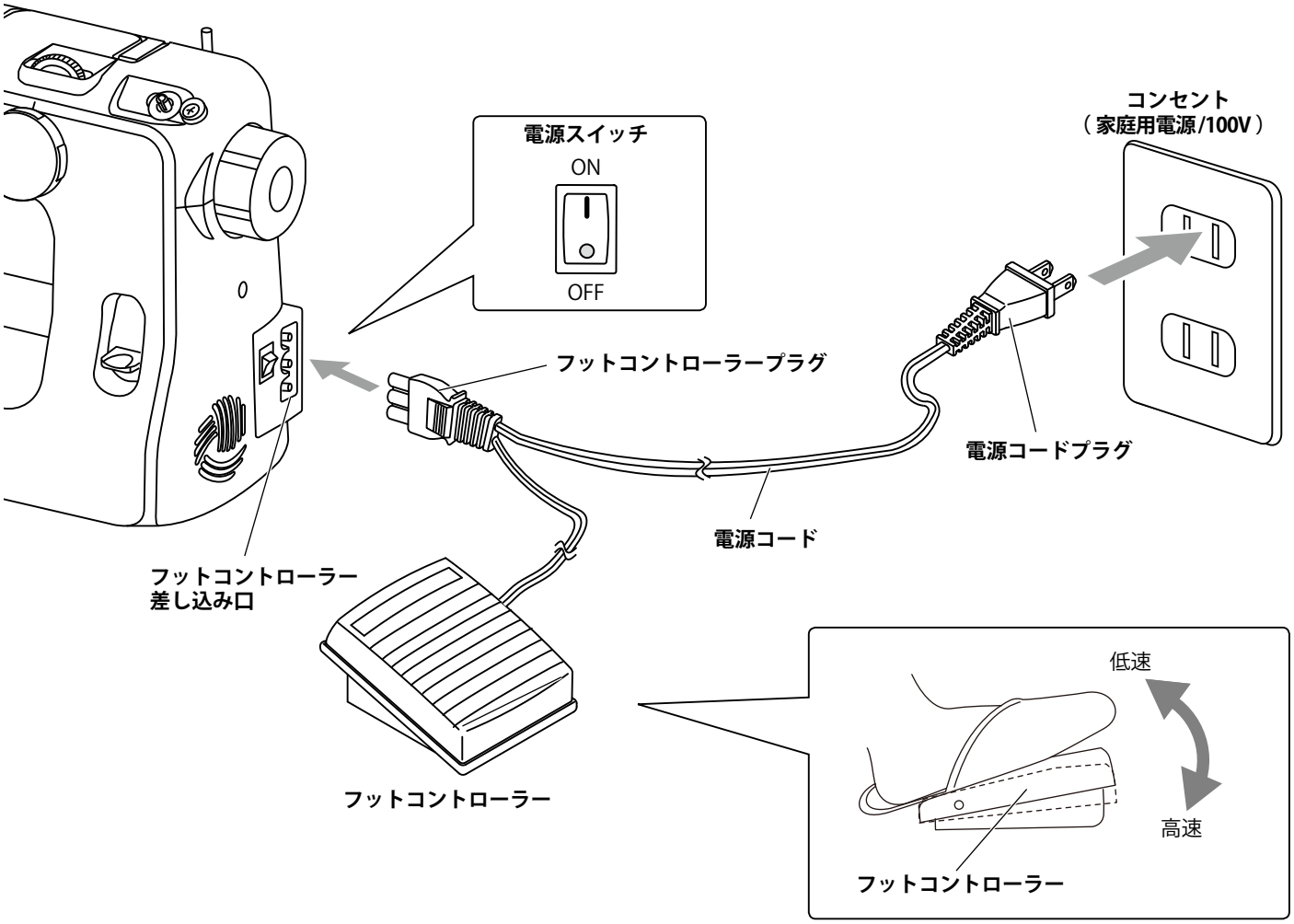
電源を入れる

注意

・電源スイッチを『 OFF 』にする。　・はずみ車や針周辺に手や物を置かない。
突然動くとケガをする恐れがあります。

警告

・電源コードはプラグ部分を持って抜き差しする。
電源コードを引っぱると、電源コード部分が破損し、死亡、火災、感電、
機器故障の原因になります。



【1】『 電源スイッチ 』を『 OFF 』にします。

【2】『 フットコントローラープラグ 』をミシン側の『 フットコントローラー差し込み口 』の向きを合わせて差し込みます。

【3】 コンセント（ 家庭用電源 /100V ）に『 電源コードプラグ 』を差し込みます。

【4】『 電源スイッチ 』を『 ON 』にします。(『 ランプ 』が点灯します)

【5】『 フットコントローラー 』を少しずつ踏み込むと、ミシンは動き始めます。

【6】『 フットコントローラー 』を踏み込むほど、ミシンのスピードは速くなります。

【7】『 フットコントローラー 』から足を離すと、ミシンは停止します。

***使用後は、必ず『 電源コードプラグ 』をコンセントから抜いてください。**
***専用フットコントローラー『 型式：KD-1902　定格：AC100V 』**

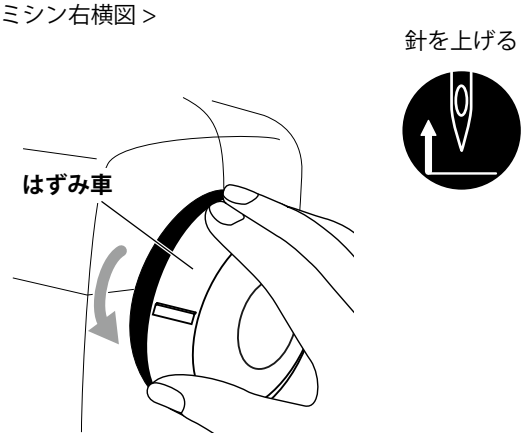
ボビンの取り出しかた

注意

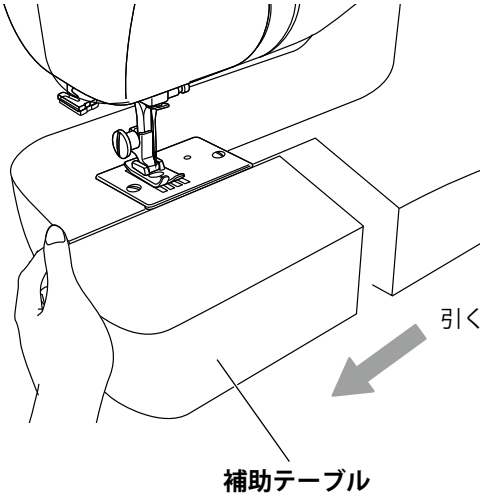
・電源スイッチを『 OFF 』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。

・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

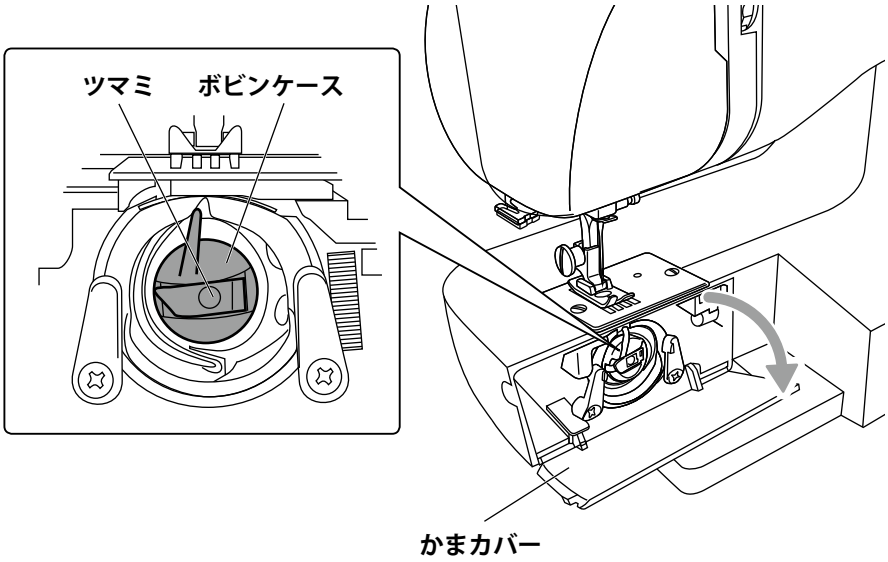
< ミシン右横図 >



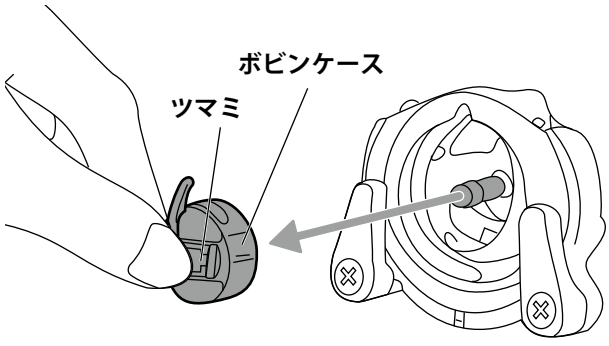
【 1 】『 はずみ車 』を手前に回し、『 針 』を一番上にします。



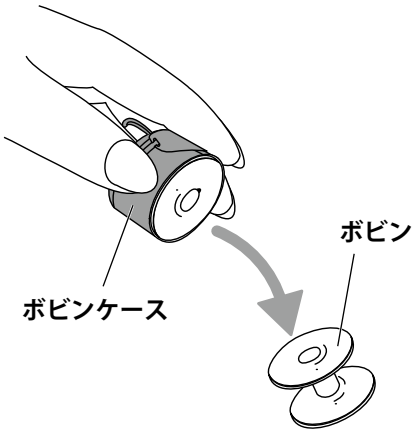
【 2 】『 補助テーブル 』を外します。



【 3 】『 かまカバー 』を開きます。



【 4 】『 ボビンケースのツマミ 』をおこし、つまんだまま引き抜きます。



【 5 】『 ツマミ 』を閉じると中の『 ボビン 』を取り出せます。

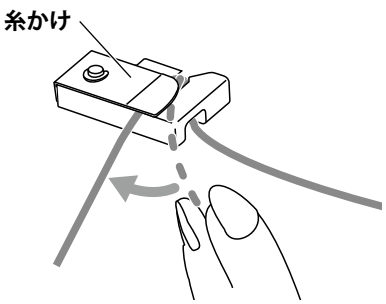
下糸の巻きかた

＊ボビンは家庭用プラスチックボビン(高さ11.5㎜×直径20.5㎜)をご使用ください。
(異なるボビンをご使用しますとミシンの故障の原因になる恐れがあります)

注意

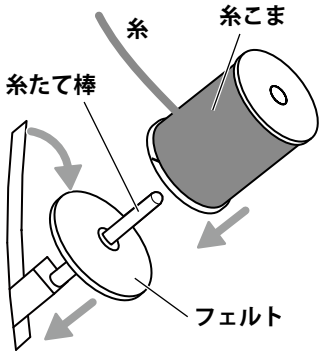
・電源スイッチを『 OFF 』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。

・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



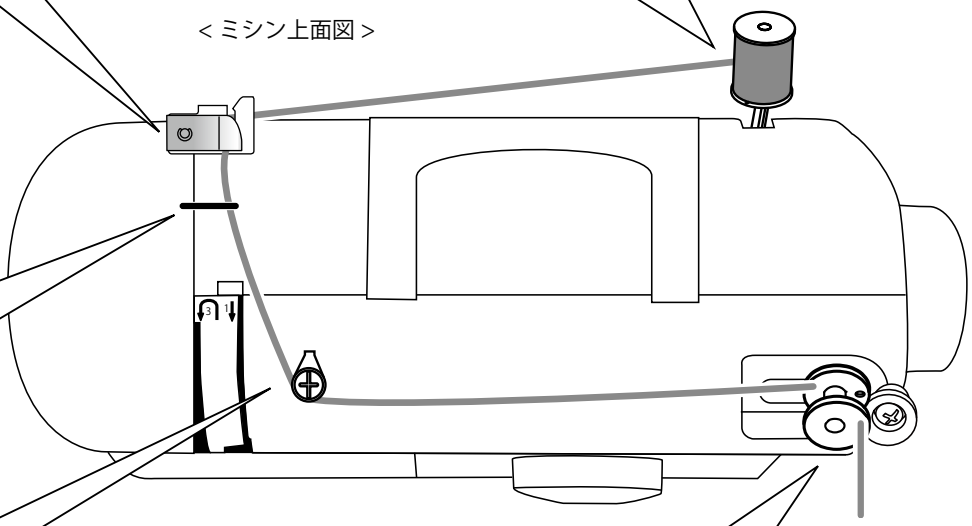
【2】『 糸かけ 』に糸をかけます。

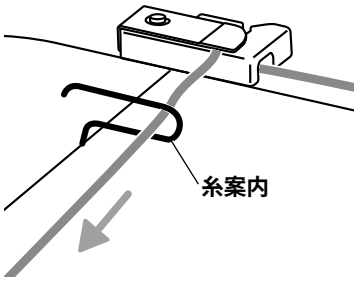
< ミシン背面図 >



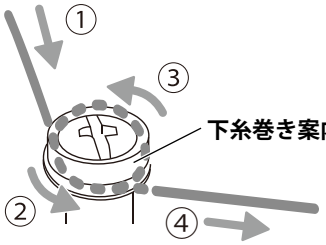
【1】『 糸たて棒 』に『 フェルト 』
『 糸こま 』の順に奥まで
差し込みます。

< ミシン上面図 >

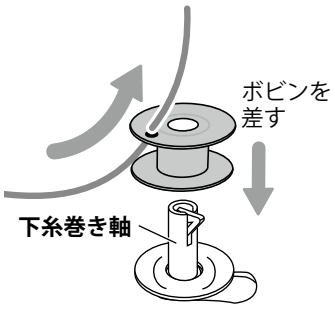


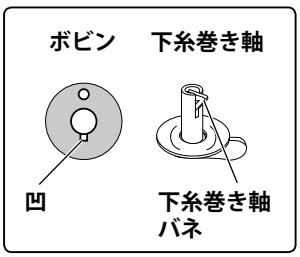


【3】『 糸案内 』に糸をかけます。



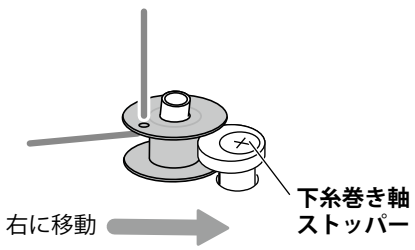
【4】『 下糸巻き案内 』に一回転させ、
奥までしっかり糸をかけます。





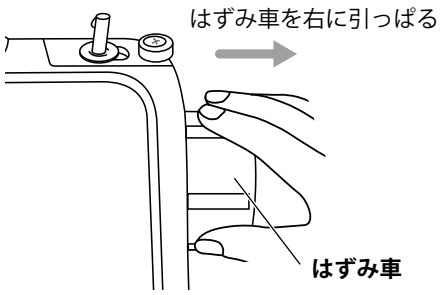
【5】『 ボビン 』の穴に内側から糸を通し、『 下糸巻き軸 』に
『 ボビン 』を差します。

＊『 ボビンの凹 』と『 下糸巻き軸 』のバネを合わせるように
ボビンを入れます。

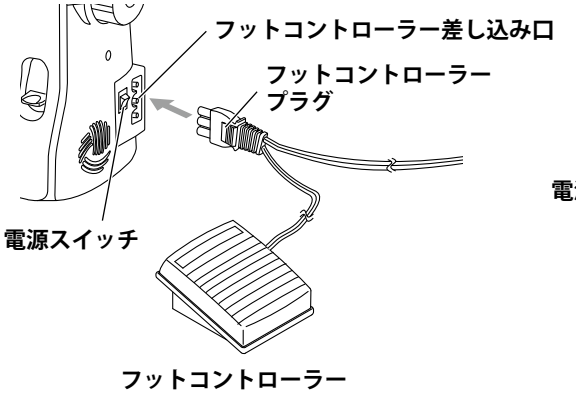


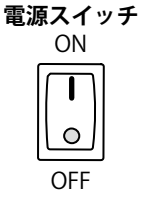
【6】『 下糸巻き軸 』を右に移動させます。

< ミシン正面図 >



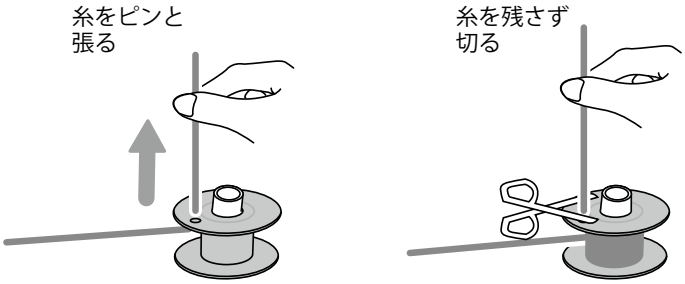
【 7 】『 はずみ車 』を右に引っぱり、
糸巻きモードにします。



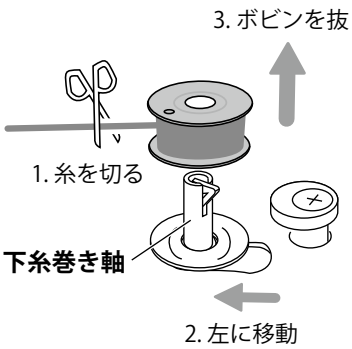


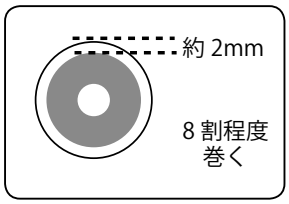
【 8 】『 フットコントローラープラグ 』をミシン側の
『 フットコントローラー差し込み口 』の向きを
合わせて差し込み、コンセントに
『 電源コードプラグ 』を差し込みます。

【 9 】『 電源スイッチ 』を『 ON 』にします。
(『 ランプ 』が点灯します)



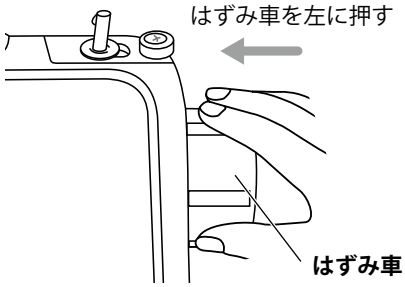
【 10 】糸先を持ったまま『 フットコントローラー 』を
軽く踏み込み、『 ボビン 』に 5、6 回転させ、
糸を巻き付けます。ミシンを一度止め、
持っていた糸を『 ボビン 』の穴から
残さず切ります。





【 11 】『 フットコントローラー 』を深く踏み込み、
糸を巻きます。糸が巻き終わったら
『 フットコントローラー 』から足を離して
ミシンを止めます。
『 下糸巻き軸 』を左に戻し、
『 ボビン 』を抜きます。

< ミシン正面図 >



【 12 】『 はずみ車 』を左に押し、
糸巻きモードを解除します。

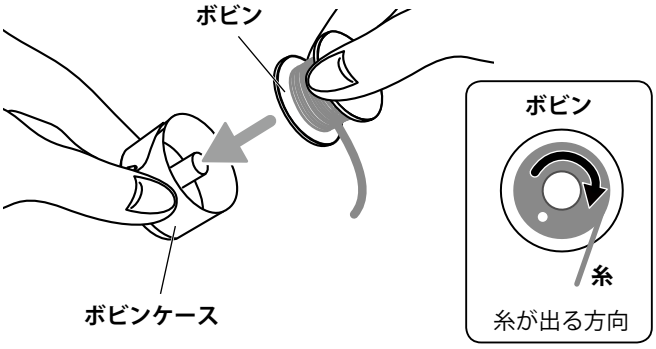
下糸のセット

注意

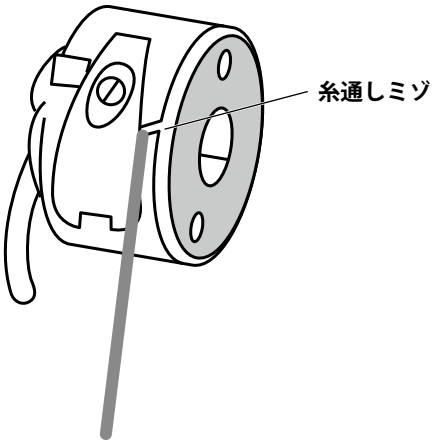
・電源スイッチを『 OFF 』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。

・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

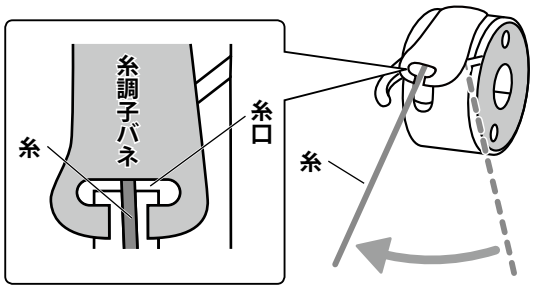
●ボビンケースにボビンをセット



【1】『 ボビン 』から糸を 10㎝ほど引き出し、糸が右回りになるように『 ボビンケース 』の中に入れます。



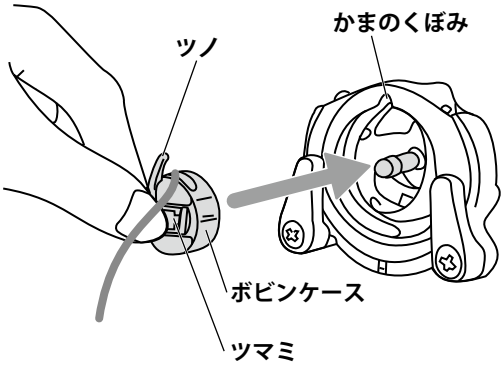
【2】糸の端を持ち、『 ボビンケース 』の『 糸通しミゾ 』に入れます。



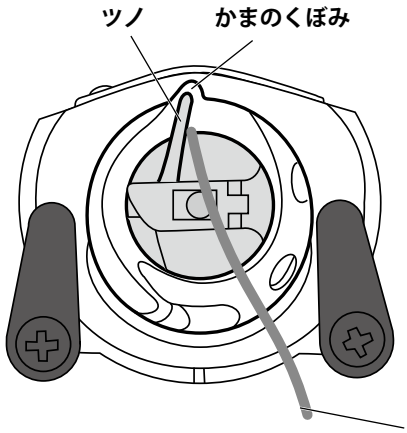
【3】『 ボビン 』が回転しないように、押えながら糸を左に引き、『 糸口 』まで糸を引きます。

＊糸を引いたとき、『 ボビン 』がスムーズに回転しない場合は『 ボビン 』や『 ボビンケース 』が変形している恐れがあります。

● ボビンケースをかまにセット

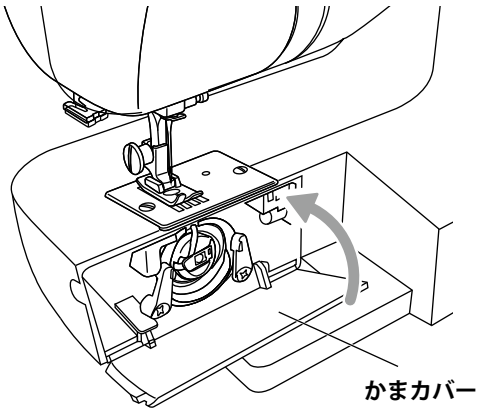


【4】『 ツマミ 』を持ち、『 ツノ 』を『 かまのくぼみ 』に入るように合わせ、奥まで差し込みます。



【5】『 ボビンケース 』が固定されたことを確認して糸を手前にたらしておきます。

＊『 ボビンケース 』が回転する場合は奥まで入っていません。『 ボビンケース 』をもう一度入れ直してください。



【6】『 かまカバー 』を閉じ、『 補助テーブル 』を取り付けます。

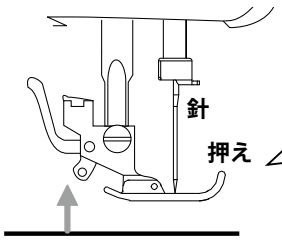
上糸のかけかた

注意

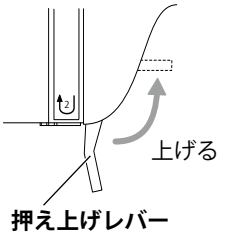
・電源スイッチを『 OFF 』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。

・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

準備



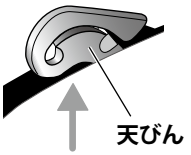
< ミシン正面図 >



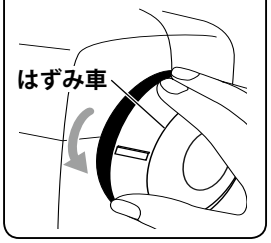
『 押え上げレバー 』で『 押え 』を上げます。
*『 押え 』を下げた状態で上糸を通すと、糸の調子が取れません。

針を上げる　天びんを上げる

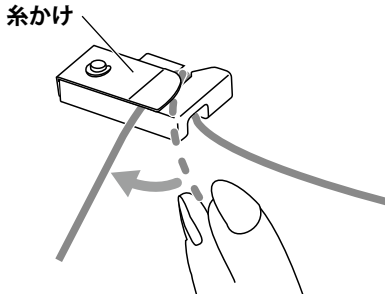




< ミシン右横図 >

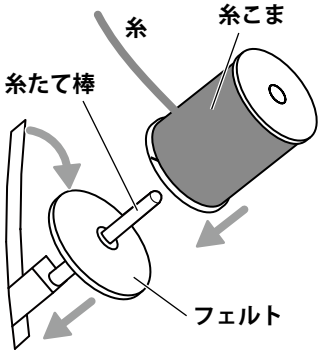


『 はずみ車 』を手前に回し、針と『 天びん 』を上げます。



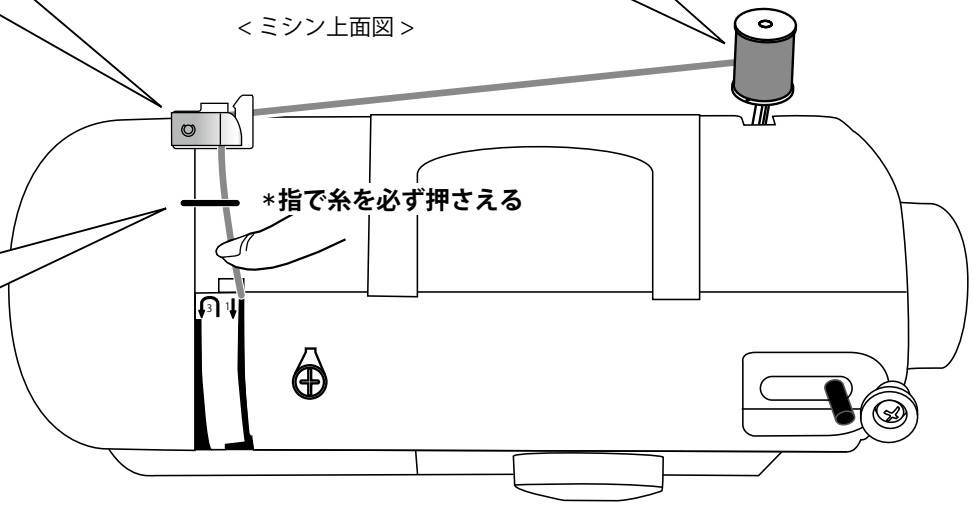
【 2 】『 糸かけ 』に糸をかけます。

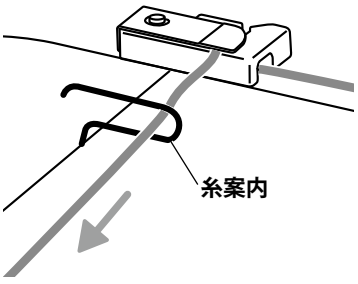
< ミシン背面図 >



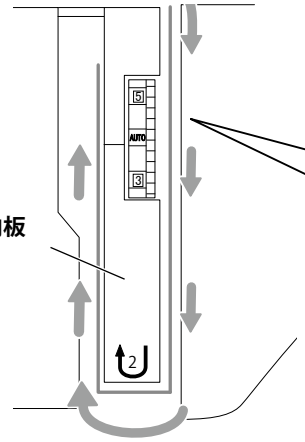
【 1 】『 糸たて棒 』に『 フェルト 』『 糸こま 』の順に奥まで差し込みます。

< ミシン上面図 >

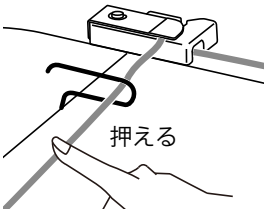




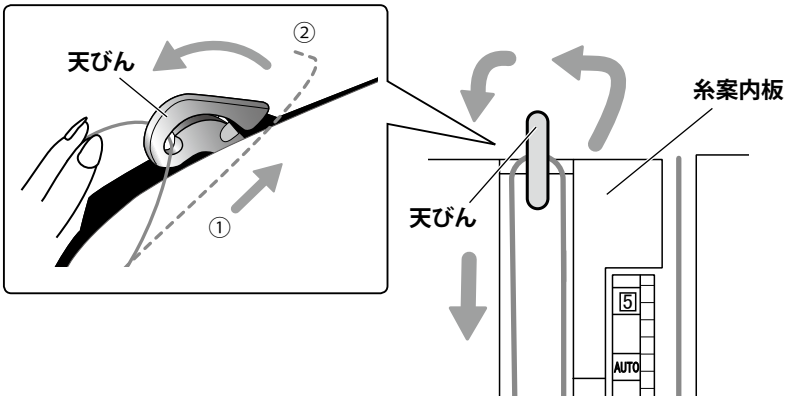
【 3 】『 糸案内 』に糸をかけます。



【 4 】『 糸案内板 』にそって糸を下ろし、左上に引き上げます。



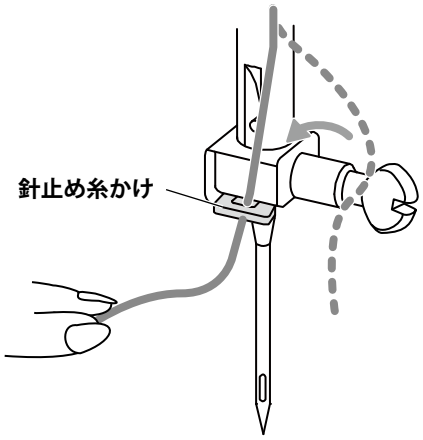
*ポイント
『 糸案内 』からの糸を押えながら『 糸案内板 』に糸を通すことで、糸が『 糸案内板 』の奥までしっかり通ります。
糸絡み防止にもつながります。



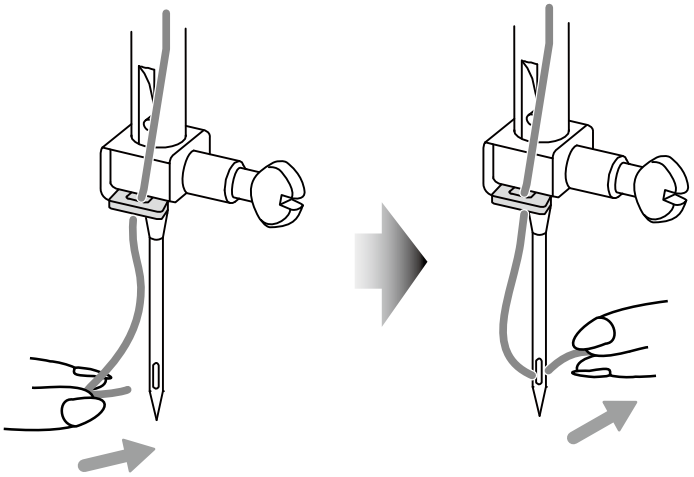
【5】『糸案内板』にそって上げた糸を
『天びん』に右から左に糸を通します。

【6】『天びん』から『糸案内板』にそって、
糸を下ろします。

*『はずみ車』を手前に回して、『天びん』に
糸がかかっているか確認してください。



【7】糸を『針止め糸かけ』に通します。
*右側から糸を通すと通しやすいです。



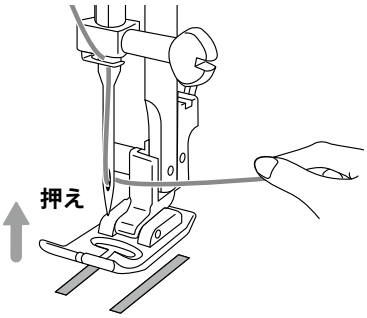
【8】針の穴に手前から糸を通します。

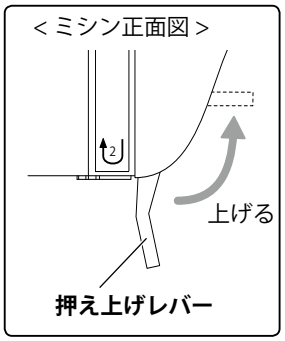
下糸の引き上げかた

注意

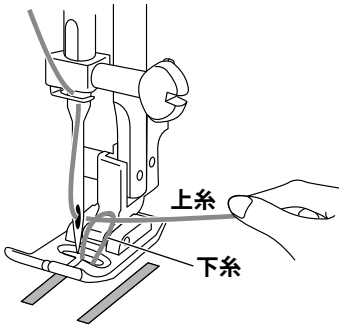
・電源スイッチを『 OFF 』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。

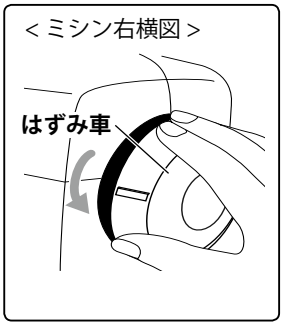
・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。





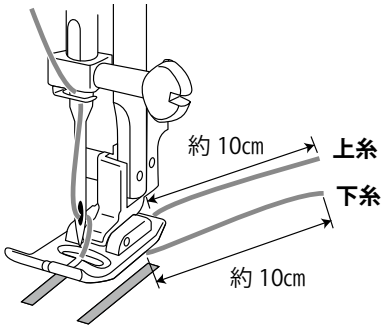
【 1 】『 押え 』を上げ、『 上糸 』の端を持ちます。





【 2 】『 はずみ車 』を手前に 1 回転させ針を上げると、下糸の輪が引き出されます。
上糸の端を引き下糸の輪をつまみ、下糸を引き上げます。

***『 天びん 』が一番上に上がるまで「 はずみ車 』を回してください。**



【 3 】 上糸と下糸をそろえ、『 押え 』の下に約 10cm 引き出します。

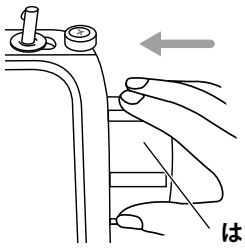
直線縫い

注意

・縫い模様を選択するときは、針を上げる。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。

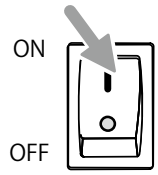
・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

準備

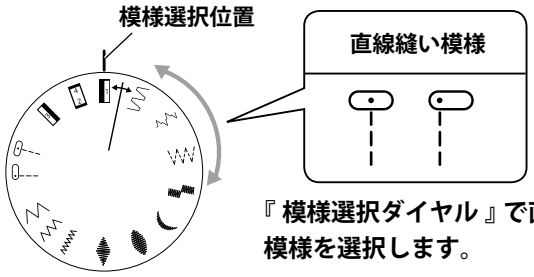


『はずみ車』を左に押し、糸巻きモードを解除します。

はずみ車

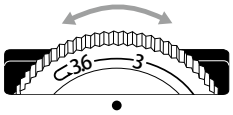


『電源スイッチ』を『ON』にします。



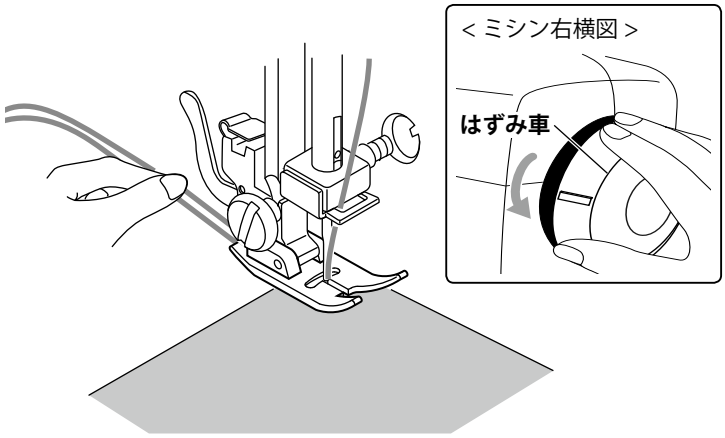
『模様選択ダイヤル』で直線縫いの模様を選択します。

模様選択ダイヤル



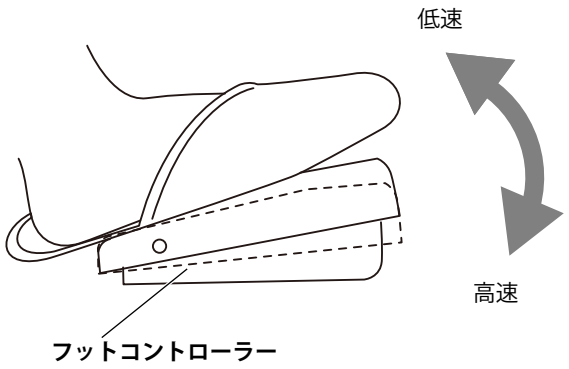
縫い目長さ調節ダイヤル

『縫い目長さ調節ダイヤル』で好みの縫い目長さを選びます。
（P19 の縫い目長さ調節ダイヤルをご参照ください）



【1】生地を『押え』の下に置き、『上糸』と『下糸』をミシン後方に引っぱりながら『はずみ車』を手前に回して、縫い始める位置に針を刺します。

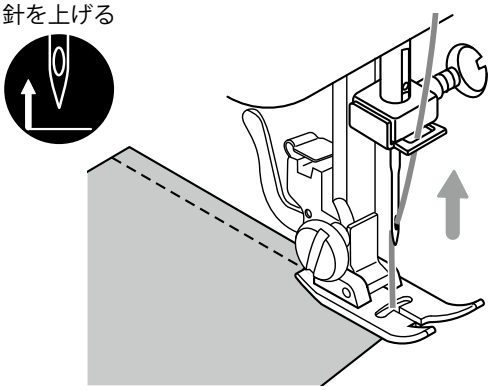
【2】『押え』を下げます。



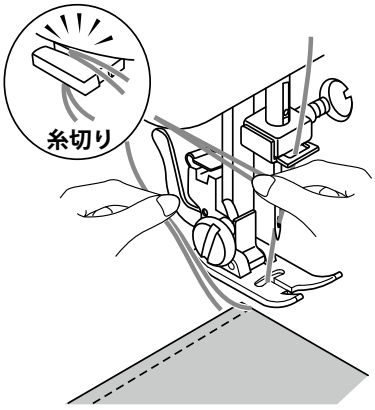
【3】少しずつ『フットコントローラー』を踏み込み、縫い始めます。

【4】生地に手を軽くそえ、生地の進む方向を修正・補助します。

【5】『フットコントローラー』から足を離して、ミシンを止めます。



【6】『はずみ車』を手前に回して、針と『天びん』を上げます。
＊針と『天びん』が上がりきっていないと糸が引っかかりスムーズに引き出せない。

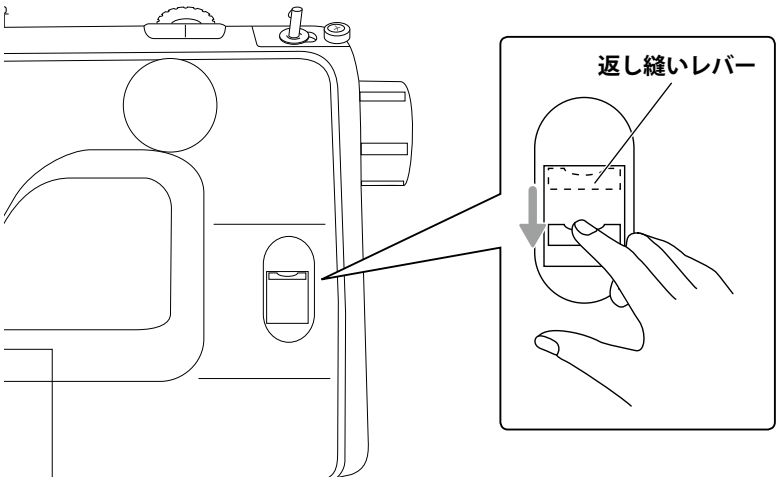


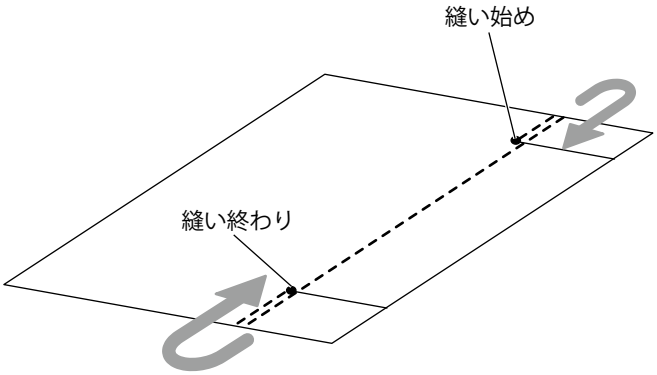
【7】『押え上げレバー（白）』を上げ、生地を引き出します。その後、『糸切り』で糸を切ります。
＊薄地や送りの悪い生地を縫うときは、ハトロン紙などの紙を生地の下に敷くと順調に縫うことができます。

返し縫い

注意

・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

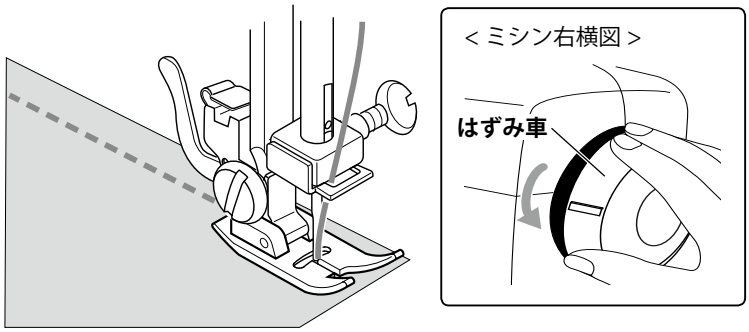




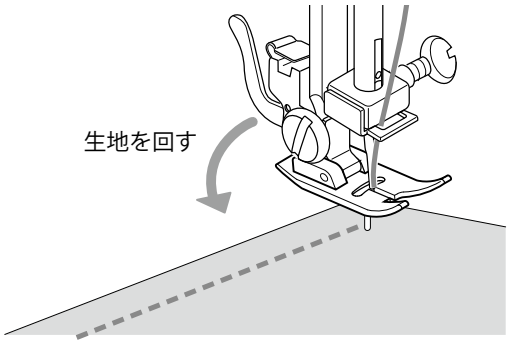
ミシンが動いているときに、『返し縫いレバー』を押し下げている間は返し縫いになります。

＊縫い始めと縫い終わりに返し縫いを行うとほつれ止めになります。
＊生地の端の寸前から返し縫いを行うと、生地が食い込んでしまう場合があります。

縫い方向を変える



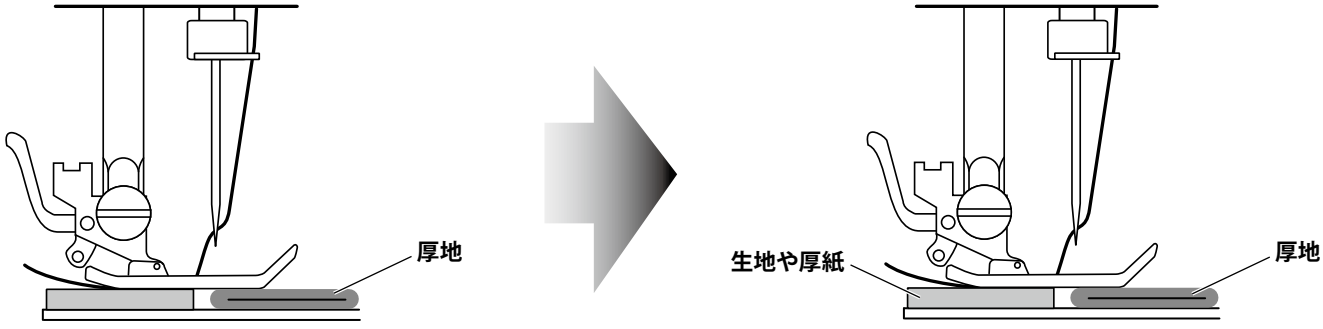
【1】 生地の角まで縫い、ミシンを停止し、『はずみ車』を手前に回し、針を一番下まで下げます。
＊針が一番下まで下がっていないと糸絡みの原因になります。



【2】『押え』を上げ、針を軸にして生地を回転させ縫い方向を変えます。
再び、『押え』を下げ、縫い始めます。

厚地や段差を縫う

縫い始めや段差を縫うとき

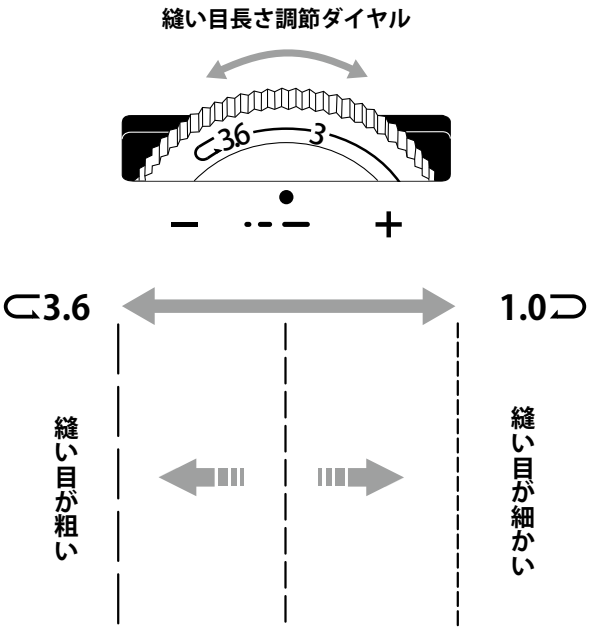


厚地を生地の端から縫い始めると『押え』が傾き、生地が進まなくなることがあります。
その場合、『押え』の下に生地と同じ厚さの生地や厚紙を置き、傾きをなくすと順調に縫い始めることができます。

＊厚地を縫うときは、市販の『家庭用ミシン針:16番』をご使用されることをおすすめします。

縫い目長さ調節ダイヤル

『縫い目長さ調節ダイヤル』で調節すると、縫い目の長さが変わります。



・『縫い目長さ調節ダイヤル』を数字の小さい方（左）に回すと、縫い目の長さが細かくなります。

・『縫い目長さ調節ダイヤル』を数字の大きい方（右）に回すと、縫い目の長さが粗くなります。

＊数字を 0 に合わせると生地を送らなくなります。
＊数字を 3.6 以上は回りません。
＊厚い生地や送りにくい生地は数字を大きくしてください。
＊ボタンホールを縫う時は『▭』に合わせてください。

針、糸、生地の関係

	生地の種類	針の種類・番号	糸の種類・番号
薄地	一般裏地、ローン、ジョーゼット、レース、キュプラ など	9、11 番	綿 60 ～ 100 絹 50 ～ 90 化繊糸 60 ～ 90
普通地	一般服地、ブロード、ソフトデニム、サテン、パイル、ギンガム など	11、14 番	綿 60 ～ 90 絹 50 ～ 90 化繊糸 60 ～ 90
厚地	キルティング、フリース、ツイード、デニム、フェルト など	14、16 番	綿 40 ～ 50 絹 50 化繊糸 50 ～ 60
伸縮地	ニット、トリコット、スパンデックス、ジャージ など	ニット用針 11、14 番	綿 60 化繊糸 50 ～ 90 ニット用糸 50 ～ 90

＊針は数字が大きくなるほど太くなります。　＊糸は数字が大きくなるほど細くなります。
（針の交換は P26 の針の取り替えかたをご参照ください）

＊ きれいに縫うためには、生地に合った針と糸をご使用ください。（上記の表をご参照ください）
上糸と下糸は同じ種類・同じ太さの糸をご使用ください。

＊ 上記の表はあくまで参考です。必ず試し縫いをして、縫い目をご確認ください。

＊ 針は家庭用ミシン針（HA × 1）、糸は家庭用ミシン糸とご指定の上お買い求めください。
（工場出荷時、ミシン本体には 14 番の針が装備されています）

＊ 14 番の針のみ付属しています。9、11、16 番の針やニット用針 11、14 番は付属しておりません。

※ フリース、ベルベット、バスタオルなどの毛足が長い生地は、糸絡みが発生しやすいので、注意が必要です。

※ カタン糸、レジロン糸（ニット用糸）、テグス糸（透明）の糸は、糸絡みが発生しやすいので、注意が必要です。

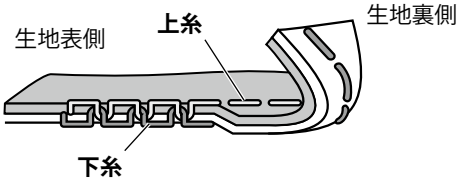
※ 厚い生地や固い生地は、針が刺さりにくく止まってしまうことがあります。
その時は『はずみ車』を手前にゆっくり手で回しながら縫い進めてください。
（手で回しても固いときは、『はずみ車』を無理に回さないでください。故障の原因になる恐れがあります）

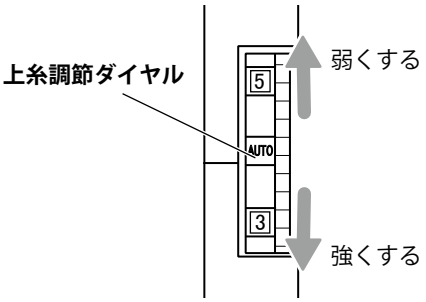
糸調子の合わせかた

糸調子が合わない場合は、『 上糸調節ダイヤル 』を回して調節してください。

●正しい糸調子

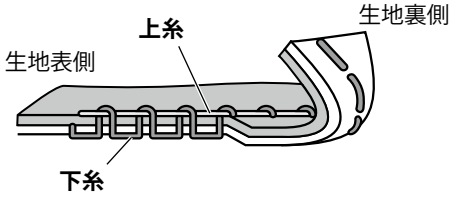
上糸と下糸が生地のほぼ中央で交わります。

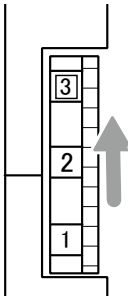




●上糸が強いとき

下糸が生地の表に出ています。

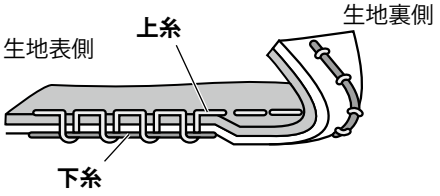


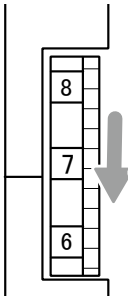


『 上糸調節ダイヤル 』を数字が小さくなる方向に回します。

●上糸が弱いとき

上糸が生地の裏に出ています。

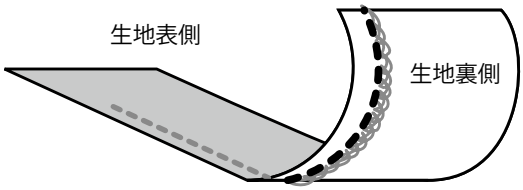




『 上糸調節ダイヤル 』を数字が大きくなる方向に回します。

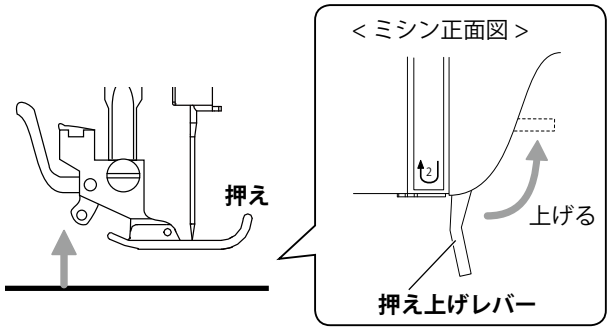
●生地の裏側の糸がタオル地のようになるときは

- 上糸の糸調子が弱い。
- 『 押え上げレバー 』が上がっている。
- 『 天びん 』から上糸が外れている。
- 上糸のかけかたが間違っている。
- 糸が太すぎる (太さ #40 までです)
- 針に不具合が生じている。

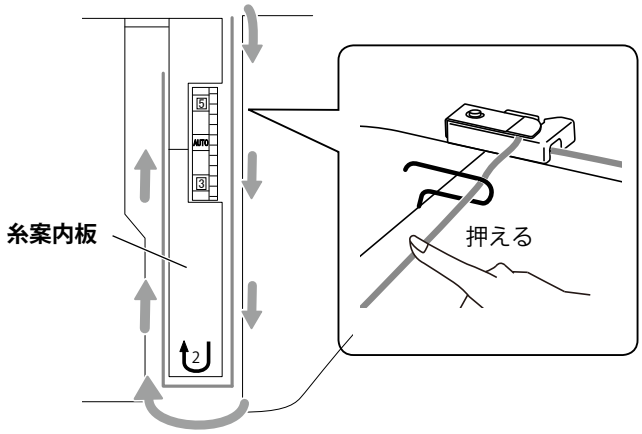


ポイント！

『 押え 』を上げ、ミシンから上糸を全て外し、上糸を再度正しくかけ直してください。
(P14 ～ P15 の上糸のかけかたをご参照してください)



『 押え上げレバー (白) 』で『 押え 』を上げる。



『 糸案内 』からの糸を押えながら『 糸案内板 』に糸を通すことで、糸が奥までしっかり通ります。
糸絡み防止にもつながります。

ジグザグ縫い／縁かがり縫い

生地の端のほつれを防止します。

注意

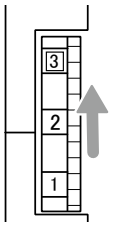
・縫い模様を選択するときは、針を上げる。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。

・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

押え	模様表示
ジグザグ押え	

ポイント！

直線縫いよりも
『 上糸調節ダイヤル 』を
少し弱めにすると
きれいに縫えます。

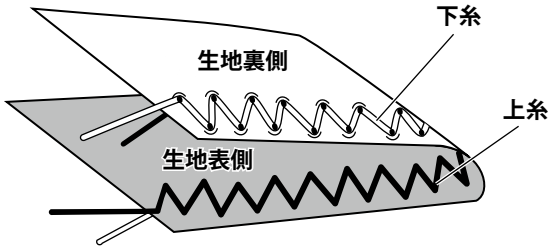


*『 縫い目長さ調節ダイヤル 』で好みの
縫い目長さに調節します。
（ P19 の縫い目長さ調節ダイヤルをご参照ください ）

●ジグザグ縫い

【 1 】『 模様選択ダイヤル 』で、ジグザグ模様を選択します。

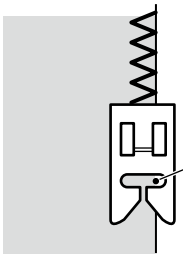
【 2 】『 押え 』を下げ、縫い始めます。



●縁かがり縫い

【 1 】『 模様選択ダイヤル 』で、ジグザグ模様を選択します。

【 2 】『 はずみ車 』を手前に回して針が右にきたときに、
生地の端より針が少し外れるように生地を置き、
『 押え 』を下げ、縫い始めます。



アップリケ

市販や自作のアップリケ布を別生地の上に縫い付けます。

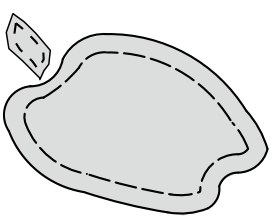
注意

・縫い模様を選択するときは、針を上げる。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。

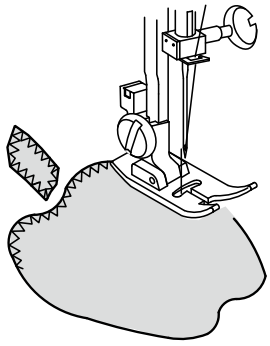
・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

押え	模様表示
ジグザグ押え	

*『 縫い目長さ調節ダイヤル 』で好みの縫い目長さに調節します。
（ P19 の縫い目長さ調節ダイヤルをご参照ください ）



【 1 】 アップリケ布を生地にしつけ、
または布用ボンドで仮止めします。



【 2 】 アップリケ布の回りを縫い付けます。
＊縫い方向を変えるときは、アップリケ布の外側に
針を刺し、押えを上げ、生地全体を回します。

パッチワーク（つき合わせ）

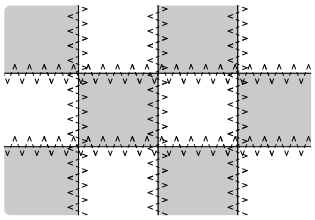
色々な生地をつなぎ合わせ、装飾や衣類の破れなどの補修にも用います。

注意

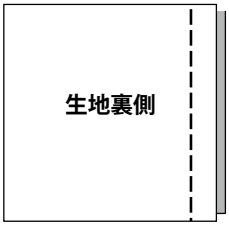
・縫い模様を選択するときは、針を上げる。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。

・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

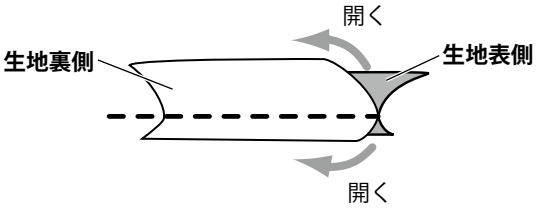
押え	模様表示
 ジグザグ押え	



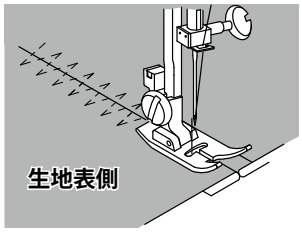
*『縫い目長さ調節ダイヤル』で好みの
*縫い目長さに調節します。
（P19の縫い目長さ調節ダイヤルをご参照ください）



【1】2枚の生地を中表にし、直線縫いで縫い合わせます。



【2】縫い合わせを開きます。



【3】両方の生地に模様がまたがるように縫います。

ゴムテープ付け

袖口などのゴム付けをきれいに縫えます。

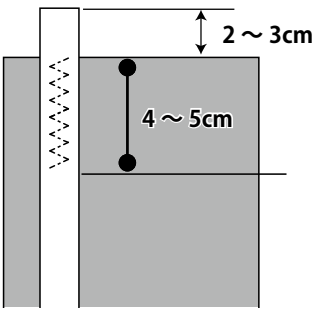
注意

・縫い模様を選択するときは、針を上げる。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。

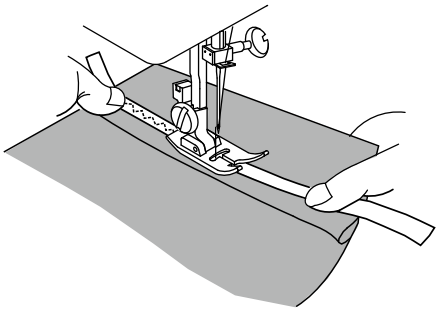
・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

押え	模様表示
 ジグザグ押え	

*『縫い目長さ調節ダイヤル』で好みの
*縫い目長さに調節します。
（P19の縫い目長さ調節ダイヤルをご参照ください）
*ゴムテープは用途の長さより4～6cm長めに切ります。



【1】生地に対しゴムテープを2～3cmはみ出し、4～5cmを縫いミシンを止めます。
（4～5cmを縫っている間は、ゴムテープは伸ばさないでください）



【2】縫い終わり側のゴムテープの端を伸ばして、生地と一緒に押えながら縫います。
*ゴムテープは伸ばしたまま生地がシワにならないように縫い付けます。

*目飛びをするときは、針を『ニット用針』に交換してください。（『ニット用針』は付属されておりません）
*生地の裏に糸がたるんでいる場合は、上糸の糸調子を強くします。

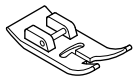
スカラップ

子供服やテーブルクロスなどの生地の端を装飾するときに用います。

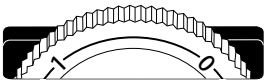
注意

・縫い模様を選択するときは、針を上げる。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。

・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

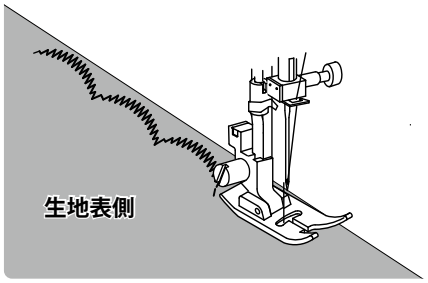
押え	模様表示
 ジグザグ押え	

ポイント！

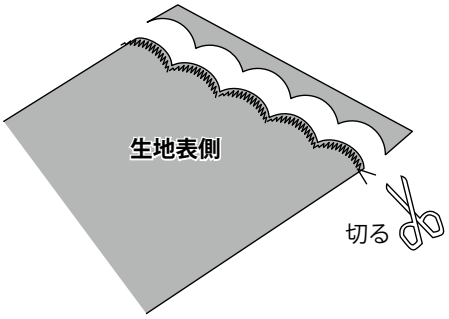


縫い目長さ調節ダイヤル

『縫い目長さ調節ダイヤル』で
0 と 1 の間に調節します。
（P19 の縫い目長さ調節ダイヤルを
ご参照ください）



【1】生地の端にそって縫い合わせます。



【2】糸を切らないように注意して縫い目に
そって生地を切ります。

ボタンホール縫い

ボタンの大きさにあったボタンホールを縫うことができます。

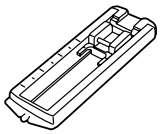
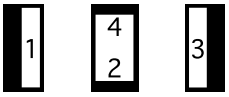
注意

・押え交換時は、電源スイッチを『 OFF 』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。

・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

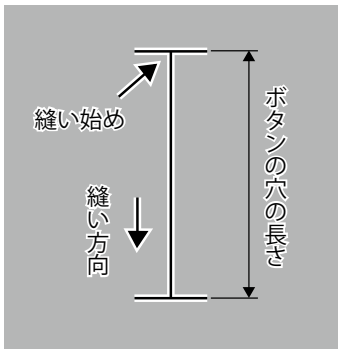
・縫い模様を選択するときは、針を上げる。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。

縫い損じを防ぐため、製品に縫う前に必ず別生地でボタンホールを作り、ボタンが通るかご確認ください。

押え	模様表示
 ボタンホール押え	

ポイント

伸縮性の生地や薄い生地は不織布 (芯地) を裏に貼るとよりきれいに仕上がります。

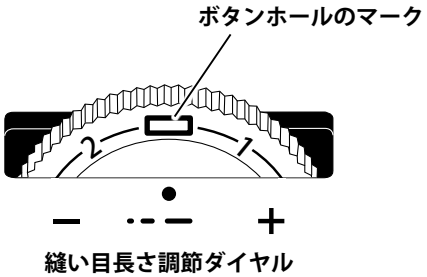


【 1 】 ボタンの大きさと厚さ、生地の種類に応じてボタンの穴の長さを決め、ボタンホールを作る生地に印を付けます。

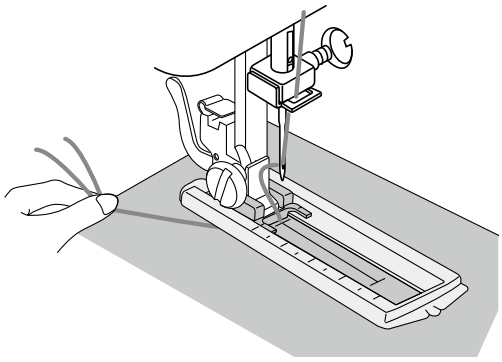
＊生地に印を付けておくと、縫う方向を間違えません。

ボタンの穴の長さ = ボタンの直径 + ボタンの厚み



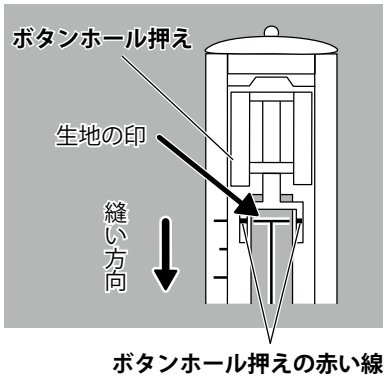


【 2 】『 縫い目長さ調節ダイヤル 』を『 ボタンホールのマーク 』に合わせます。



【 3 】『 ボタンホール押え 』を手前に引いておきます。

＊『 ボタンホール押え 』は、『 押え上げレバー (白)』を 2 段目まで上げて交換してください。
(P7 の押え上げレバーをご参照ください)



【4】 生地に付けたボタンホールの印と
『ボタンホール押えの赤い線』を合わせて、生地を置きます。
『ボタンホール押え』を『押え上げレバー（白）』で下げます。

＊生地が斜めになっていると、ボタンホールが生地に
対して斜めに作られますのでご注意ください。

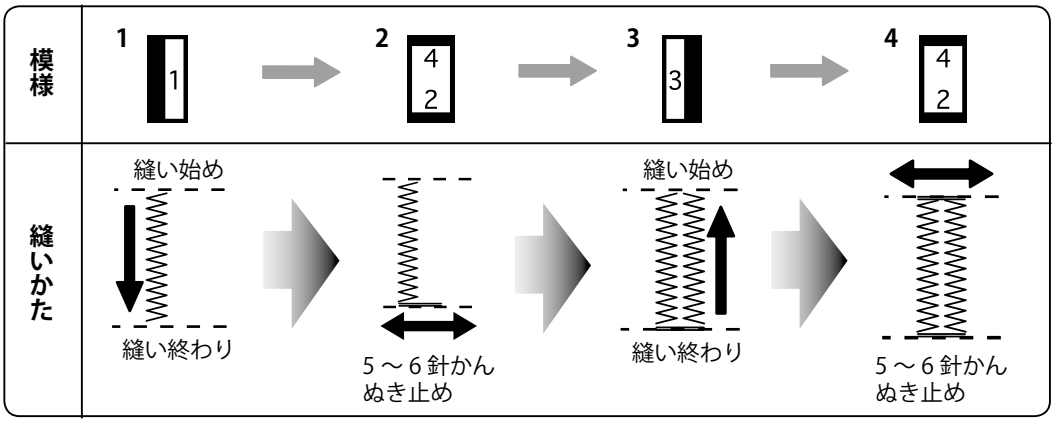
【5】 以下の手順で縫い始めます。

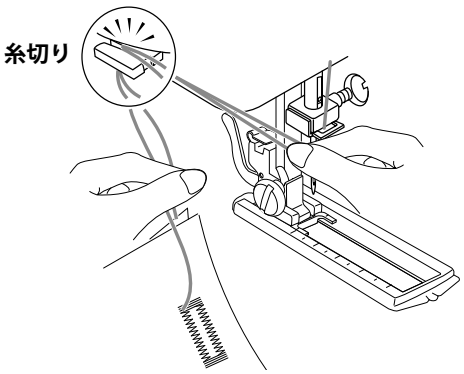
1. 上糸を軽く持ち、『フットコントローラー』を軽く踏み込んで縫い始めます。
縫い始めから縫い終わりまで縫い、ミシンを止めて持っている上糸を切ります。

2. 『模様選択ダイヤル』を回して、ボタンホール模様 2、4を選択し、『フットコントローラー』を
踏み込み、5～6針かんぬき止めをして『フットコントローラー』から足を離してミシンを止めます。

3. 『模様選択ダイヤル』を回して、ボタンホール模様 3 を選択し、『フットコントローラー』を
踏み込み、縫い終わりから縫い始めまで縫い、ミシンを止めます。

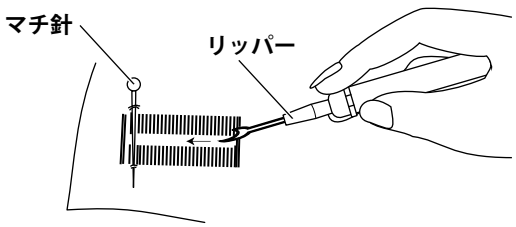
4. 『模様選択ダイヤル』を回して、ボタンホール模様 2、4を選択し、『フットコントローラー』を
踏み込み、5～6針かんぬき止めをしてミシンを止めます。





【6】『押え上げレバー（白）』で『ボタンホール押え』を上げ、
糸切りで糸を切ります。

＊針と『天びん』が一番上に上がった状態で生地を取り出します。



注意

・リッパーの先端に手をそえない。
ケガをする恐れがあります。

【7】 ボタンホールの穴に付属の『リッパー』を刺し、
押しながらボタン穴を切り開きます。

＊マチ針をかんぬき部分に刺しておくと、
ボタンホールの切り開き過ぎを防げます。

針の取り替えかた

注意

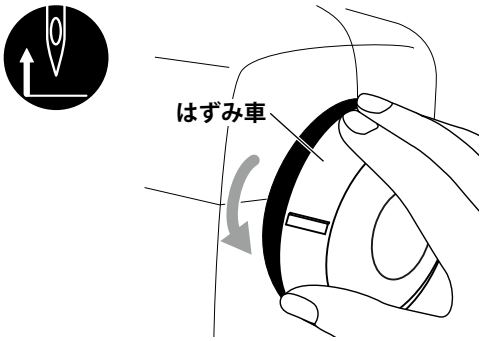
・電源スイッチを『 OFF 』にし電源コードプラグをコンセントから抜く。
突然動くとケガをする恐れがあります。

・ 針先に注意する。 ケガをする恐れがあります。

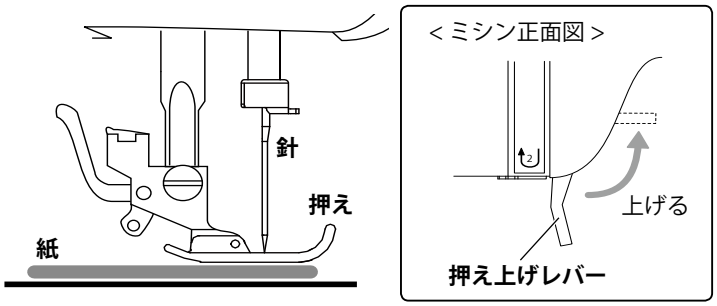
・針は平らな面を後ろ向きに付ける。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。また、縫い目ができず縫えません。

・ 針を交換するときは専用の付属品で交換する。
縫っているときに針が抜け、ケガをする恐れがあります。

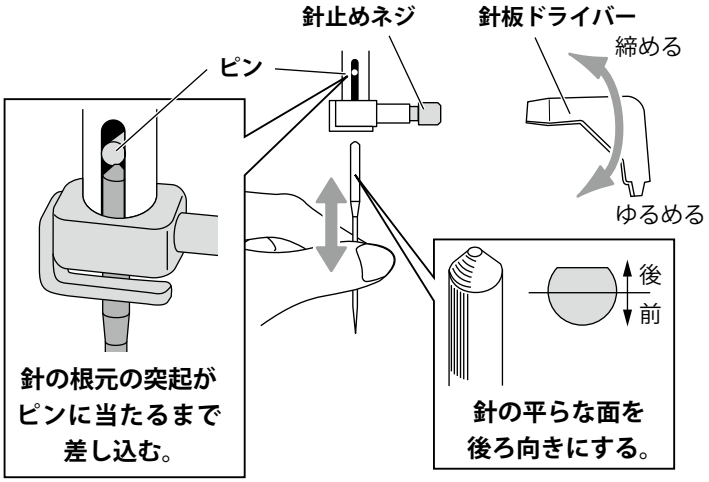
針を上げる　< ミシン右横図 >



【 1 】『 はずみ車 』を手前に回し、針を一番上にします。



【 2 】『 押え上げレバー（ 白 ）』を上げ、『 押え 』の下に生地や紙などを敷き、『 押え上げレバー 』を下げます。
＊針が『 針板 』の針穴に落下するのを防止します。



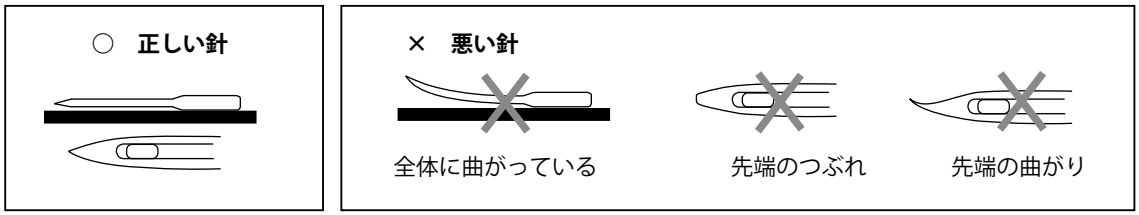
【 3 】『 針板ドライバー 』を使用し、針を交換します。

外す　：取り付けられている針を持ち、『 針止めネジ 』をゆるめ、針を下に引き抜きます。

付ける：平らな面を自分から見えないように持ち、『 ピン 』に当たるまで差し込み、『 針止めネジ 』を締めます。

正しい針の選びかた

・曲がった針は使用しないでください。
・家庭用ミシン針（ HA × 1 ）をご使用ください。
・目飛び、糸絡みがする場合は、ミシンに付いている針先が曲がっていたり、つぶれていないかを確認してください。
・不良の針を使い続けると、きれいに縫えないばかりでなく、針板やかまに傷をつけます。新しい針に交換してください。



＊ガラスのような平らな面に針を置き、針の曲がり具合を確認してください。

かまの掃除

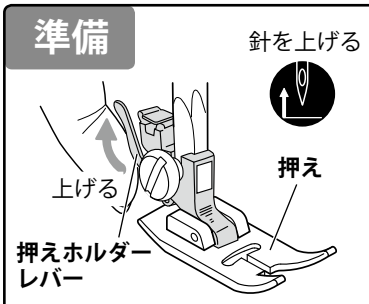
ミシン本体の汚れは、やわらかい生地で乾拭きしてください。
（住宅用洗剤、漂白剤、ベンジン、シンナー、化学雑巾は表面の色が変わるため、ご使用しないでください）

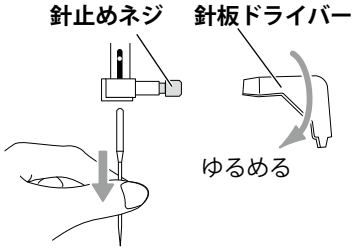
注意

・電源スイッチを『 OFF 』にし電源コードプラグをコンセントから抜く。
突然動くとケガをする恐れがあります。

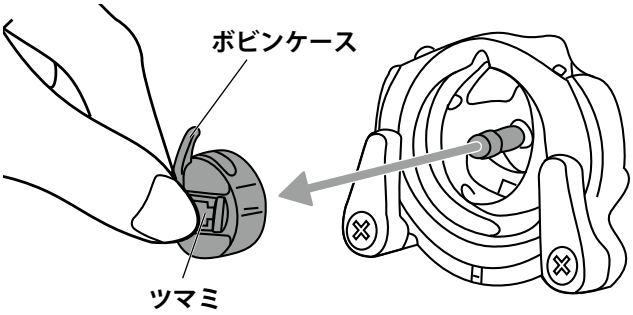
・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

準備

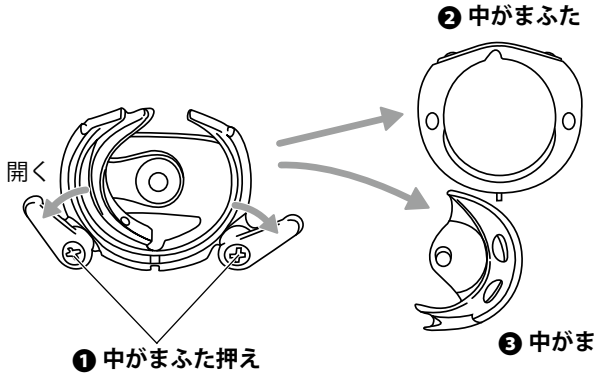




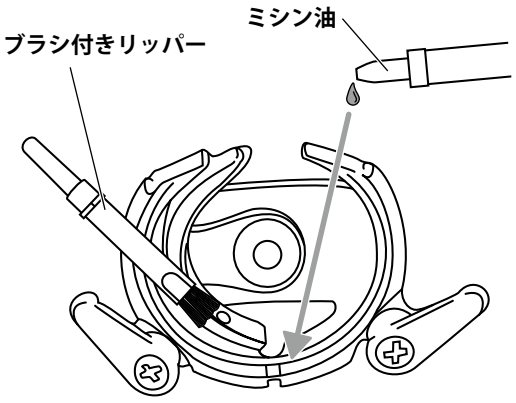
【1】『はずみ車』を手前に回し、針を一番上にします。
【2】『押え』を上げ、『押えホルダーレバー（金属）』を押して『押え』を外します。
【3】『針板ドライバー』で『針止めネジ』をゆるめ、針を下に引き抜きます
（P26 の針の取り替えかたをご参照ください）



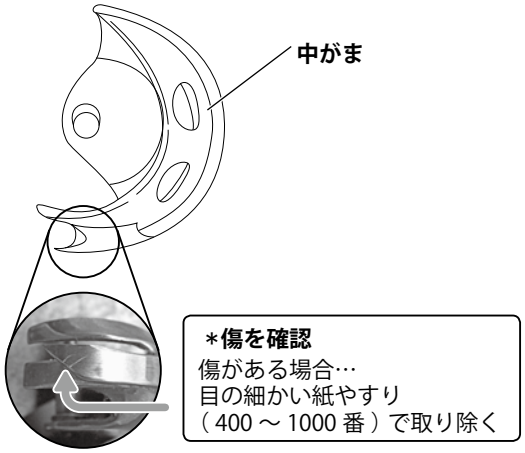
【1】『ボビンケースのツマミ』をおこし、つまんだまま引き抜きます。



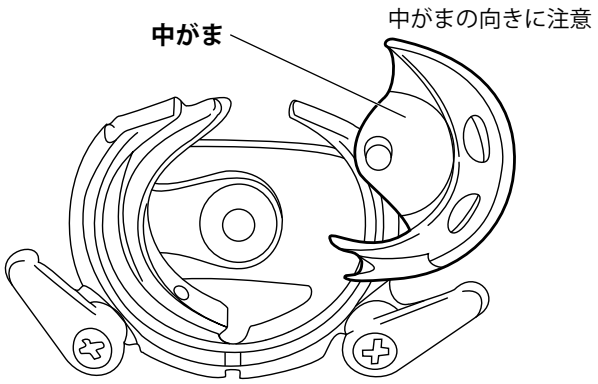
【2】❶『中がまふた押え』を左右に開き、❷『中がまふた』→ ❸『中がま』の順番で取り出します。



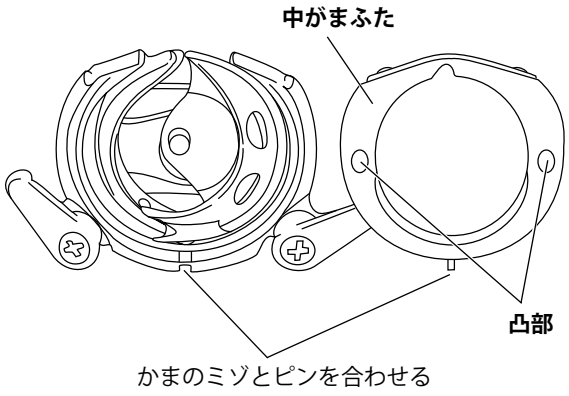
【3】かまのまわりの糸くずやほこりを取り除き、図で示したところにミシン油を一滴差します。
（差し過ぎないように注意する）
＊『ミシン油』は付属されておりません。



【4】図の矢印部をさわり、傷があるか確認します。
傷がある場合：目の細かい紙やすり（400 ～ 1000 番）で取り除く。
＊傷があると糸絡みや目飛びの原因になります。



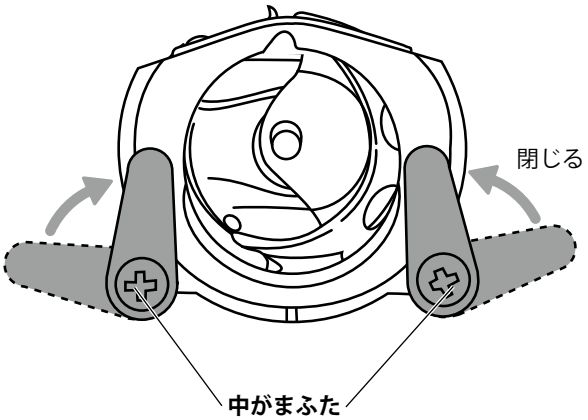
【5】組み立てるときは『中がま』の向きに注意して取り付けます。



【6】『中がまふたの凸部』を表にして『かまのミゾ』と『ピン』を合わせて、『中がまふた』を取り付けます。

注意

・両方の中がまふた押えを凸部にかぶさる位置までしっかり閉じてください。
針が中がまなどに干渉し、ケガをする恐れがあります。



【7】『中がまふた押え』を閉じて固定します。

＊『はずみ車』を手前に回して、針とかまがスムーズに回るか確認してください。

ポイント

【1】糸が絡んだなどのトラブルが発生した後は、必ず上糸と下糸を全て外して再度かけ直してください。
（P14 ～ P15 の上糸のかけかたをご参照してください）

【2】『はずみ車』を手で軽く手前に回して試し縫いを行い、縫い目に異常がないか確認して、問題なければ電動で動かしてください。

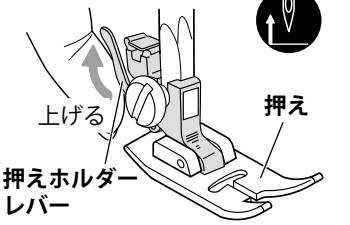
送り歯の掃除

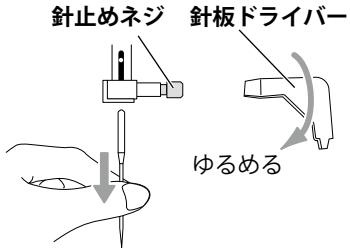
注意

・電源スイッチを『 OFF 』にし電源コードプラグをコンセントから抜く。
突然動くとケガをする恐れがあります。

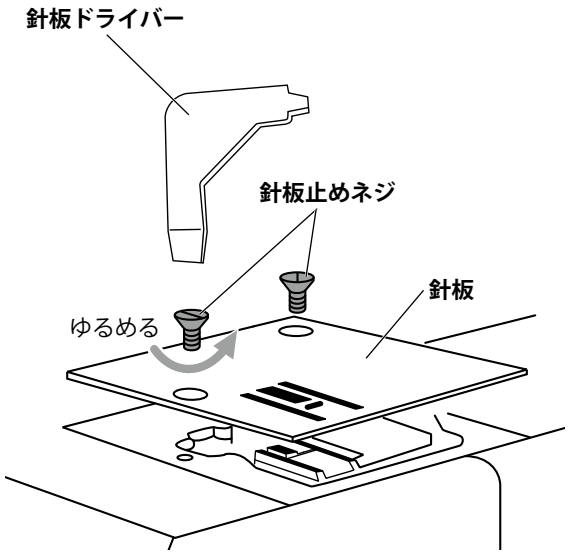
・ 針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

準備



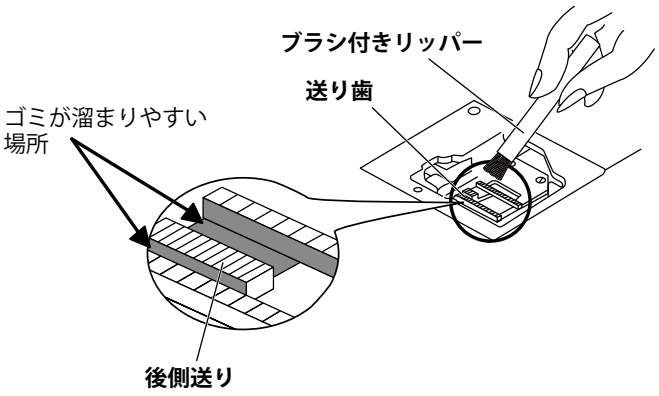


【 1 】『 はずみ車 』を手前に回し、針を一番上にします。
【 2 】『 押え 』を上げ、『 押えホルダーレバー（ 金属 ）』を押して『 押え 』を外します。
【 3 】『 針板ドライバー 』で『 針止めネジ 』をゆるめ、針を下に引き抜きます
（ P26 の針の取り替えかたをご参照ください ）



【 1 】『 針板ドライバー 』で『 針板止めネジ 』2 個を外します。

【 2 】『 針板 』を外します。



【 3 】『 送り歯 』の隙間や『 後側送り 』にはさまっているゴミなどを取り除きます。

【 4 】『 針板 』を『 針板止めネジ 』で止め、『 針 』と『 押え 』を取り付けます。

困ったときは

不具合	原因	処理	参照ページ
上糸が切れる	上糸のかけかたが間違っている。	上糸を正しくかけ直す。	14~15
	上糸の調子が強すぎる。	上糸の調子が合うまで、糸調子を弱める。	20
	かまに糸くずが絡んでいる。	かまの糸くずを取り除く。	27~28
	針が曲がっている。針先が欠けている。	新しい針に交換する。	26
	針や糸が生地に合っていない。	生地に合った針と糸を使用する。	19
	中がまに傷がある。	中がまの傷を取り除く。	27~28
	糸が劣化している。 （絹糸や綿糸は劣化しやすい）	新しい糸に取り替える。	—
	糸に結び目やコブがある。	糸に結び目やコブの部分を取り除く。	—
	正規のボビンを使用していない。	正規のボビンを使用する。	4・31
下糸が切れる	下糸のかけかたが間違っている。	下糸を正しくかけ直す。	13
	かまに糸くずが絡んでいる。	かまの糸くずを取り除く。	27~28
	糸が劣化している。 （絹糸や綿糸は劣化しやすい）	新しい糸に取り替える。	—
	正規のボビンを使用していない。	正規のボビンを使用する。	4・31
縫い目がとぶ	針の取り付けかたが間違っている。	正しく針を取り付ける。	26
	針が曲がっている。針先が欠けている。	新しい針に交換する。	26
	針や糸が生地に合っていない。	生地に合った針と糸を使用する。	19
	上糸のかけかたが間違っている。	上糸を正しくかけ直す。	14~15
	中がまに傷がある。	中がまの傷を取り除く。	27~28
生地がシワになる	上糸の調子が強すぎる。	上糸調節ダイヤルで糸調子を弱める。	20
	上糸、下糸のかけかたが間違っている。	上糸、下糸を正しくかけ直す。	13~15
	針や糸が生地に合っていない。	生地に合った針と糸を使用する。	19
生地を送らない	送り歯にホコリが溜まっている。	送り歯のホコリを取り除く。	29
生地裏の糸がタオル状になる	上糸の調子が弱すぎる。	上糸調節ダイヤルで糸調子を強める。	20
	上糸のかけかたが間違っている。	上糸を正しくかけ直す。	14~15
	押え上げレバーが上がっている。	押え上げレバーを下げて縫う。	17

不具合	原因	処理	参照ページ
ミシンが動かない	電源コードプラグの差し込みが不十分。	電源コードプラグをしっかり奥まで差す。	9
	電源スイッチが OFF になっている。	電源スイッチを ON にする。	9
	糸巻きモードになっている。	糸巻きモードを解除する。	17

仕様

これらの現象、原因以外の不具合はミシン内部の調整や部品の磨耗による交換または電気系統の故障が原因となっている可能性があります。ご購入店またはお客様相談係 (P32 参照) にご相談ください。

モデル：MF-30 シリーズ	サイズ： W35 × D15 × H27cm	重量：5kg	使用針：家庭用ミシン針 (HA × 1)
最大振り幅：4.5㎜	最大送り量：3.6㎜	返し縫い送り量：2.9㎜	ボタンホール：4 ステップ
定格電圧：交流 100V	定格周波数：50/60Hz	定格消費電力：61W	回転速度：650(± 50)rpm
フットコントローラー　型式：KD-1902　定格：AC100V		ボビン：家庭用プラスチックボビン (高さ 11.5㎜×直径 20.5㎜)	
かまタイプ：垂直半回転がま			

修理サービス要領

●修理サービスのご相談

【1】このミシンのご購入者には、ご購入店から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。
内容をお確かめの上、大切に保存してください。

【2】修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、
ご相談ください。

【3】修理サービスについてお問い合わせやご不審のある場合は、ご購入店または、お客様相談係に
お申し付けください。

●修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、ご購入の日から
通常8年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

●無料修理保証期間後の修理サービス

【1】取扱説明書に基づいて、正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用
部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。
ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。

イ.保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
ロ.浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
ハ.ご購入後の移動または輸送によって不調、故障、損傷したとき。
ニ.ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解、または改造
したために不調、故障または損傷したとき。

【2】長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によって元どおりに修復できないことがあります。

【3】有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料金の合計額となります。

「お客様相談係」

株式会社ハッピージャパン
(03)3837-1862

サービス工場のご案内

純正部品のご購入は、購入店または下記のサービス工場へお申し込みください。
ご購入頂きましたミシンは、下記の専門工場で点検修理等のサービスを致します。
なお、サービスには有償修理点検と無償修理点検とがあります。サービス工場にお問合せください。

＊ミシンを工場へ送付されるときは、このミシンの箱と緩衝材（クッション）をご利用ください。

「送付先」

株式会社 アックスヤマザキ シンガーミシンサービス係 行

フリーダイヤル：0120-305-854

月～金曜日　午前9：00 ～ 12：00　午後1：00 ～ 5：00（土曜 / 日曜 / 祝祭日休み）

〒544-0022　大阪府大阪市生野区舎利寺3-12-5
TEL:06-6717-5851　FAX：06-6741-7875

MEMO

ミシン保証書

モデル		**MF-30** シリーズ	機械番号	
※お買い上げ日		年　月　日	保証期間	お買い上げ日より本体 1 年
※お客様	ご住所	〒　TEL　様方		
	ご芳名（フリガナ）	様		
※販売店	住所 店名	〒 TEL		

ご購入後には※印欄への記入の有無をご確認下さい。
記入がない時はご購入日、またはお届け日が証明できる伝票等を添付してください。
本書は再発行致しません。
紛失しないように大切に保管して下さい。

無料修理保証に付いて

1. 無料修理保証期間（ご購入の日から 1 年間）内に故障が発生した場合は、無料で故障箇所の修理調整、または故障部品の交換をいたします。
2. 無料修理保証は表記ミシン頭部のみとし、ケース、針及び電球、消耗部品を除きます。
3. 無料修理保証をお受けいただくときは、この保証書を提示してください。
4. 保証機種がコンパクトミシンまたは、軽量可搬のポータブルミシン等であるときは、そのミシンを購入店へご持参、またはご相談ください。

無料修理保証が受けられない場合

次のような場合には、保証期間内でも保証の対象とはなりません。

1. 「取扱説明書」に記載してある使用方法または、保存方法と異なる方法によったため不調、故障または損傷したとき。
2. 浸水、冠水、火災、天災地変により不調故障または損傷したとき。
3. ご購入店、または当社で指定した販売店、サービス店以外で修理分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
4. 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
5. 特別なご依頼により点検、精密検査または分解掃除等をしたとき。
6. この保証書のご提示がなかったとき。
7. この保証書に購入年月日、ご購入店名の記載または捺印がなかったとき。
8. この保証書の字句の訂正または書き換えをしたとき。
9. この保証書は日本国内に限り有効といたします。 This warranty is valid only in Japan.

有償修理について

1. 上記の1. ～ 10. に該当する場合、その他有料で修理するときの費用は、別に定める必要部品代および技術料の合計額といたします。

お問い合わせまたはご相談先

この保証書に記載してありますご購入店または、取扱説明書の「サービス工場のご案内」に記載された「お客様相談係」へお申し付けください。

お客様へのお願い

1. この保証書は、本書によって明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理について、ご不明の場合はご購入店または、当社の「お客様相談係」等へお問い合わせください。
2. 「取扱説明書」の「修理サービス要領」をよくお読みください。
3. この保証書は紛失されても再発行いたしませんので、大切に保存してください。

SINGER®

【保証責任者】株式会社ハッピージャパン
ミシン営業部
〒 110-0016　東京都台東区台東 2 丁目 9 番 5 号
TEL:03-3837-1865
（本社）〒 990-2251　山形県山形市立谷川 3 丁目 3515

No.191　202202　PRINTED IN　CHINA